



神奈川県

# 小学校英語活動 15

子どもたちの

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度

を育成するために

< 音声及び使用資料収録CD - ROM付 >



平成 20 年 3 月

神奈川県立総合教育センター

## はじめに

社会や経済のグローバル化が急速に進展し、学校教育における外国語教育の充実が重要な課題の一つとなっています。このような中、小学校の高学年において、英語活動を行うことを原則とした外国語活動が平成 23 年度から必修化される状況にあります。また、本県においては、「神奈川力構想 プロジェクト 51」が公表された平成 16 年 3 月以来、小・中・高等学校を通じて、英語による実践的コミュニケーション能力が身に付くよう、英語教育を推進してきています。

小学校における英語活動は、「言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する」ことにつながります。小学校の英語活動では、英語でのコミュニケーションを子どもたちに体験させ、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませることが大切です。このような英語活動を実践するためには、活動の中に、子どもたちにとって「聞いてみよう。」「考えてみよう。」と思えるものがなくてはなりません。そして、子どもたちに、英語を聞くことが楽しいと感じさせ、「分からない言葉でも理解したい、自分の気持ちを伝えたい。」という気持ちをもたせることが必要になります。

本書は、子どもたちの「興味・関心や意欲」を重視して作成した英語活動集です。先生方が、クラスや子どもたちの実態に応じて活動を展開し、子どもたちが英語を聞いて、英語に慣れ親しみ、また、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができるように工夫しました。

子どもたちが楽しみながら英語に慣れ親しむことができる英語活動の実践に向け、本書を御活用ください。

平成 20 年 3 月

神奈川県立総合教育センター  
所 長 田 邊 克 彦

# 目 次

<input type="checkbox"/>	小学校段階における英語活動 -----	1
<input type="checkbox"/>	本書における英語活動の基本的な考え方 -----	2
<input type="checkbox"/>	英語活動の充実を図るために -----	6
<input type="checkbox"/>	活動集の特徴と活用方法 -----	10
<input type="checkbox"/>	活動集 -----	13
<input type="checkbox"/>	資料編	
	先生が授業で使用する英語表現-----	75
	ALT と無理なくコミュニケーションを図るために-----	79
	ALT とのコミュニケーションを図る際に役立つ英語表現-----	81
	付録 C D の内容 -----	86

## □ 小学校段階における英語活動

### 1 現状

国際化や情報化が急速に進展する中で、次代を担う国際性豊かな人材を育成するための教育の充実が求められています。このような状況のもと、平成 20 年 1 月の中央教育審議会による「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(答申)(以下「答申」という。)では、学校教育における外国語教育の充実を重要な課題の一つとし、「小学校段階で、外国語に触れたり、体験したりする機会を提供することにより、中・高等学校においてコミュニケーション能力を育成するための素地をつくることが重要である。」という考えが示されました。また、本県における「神奈川力構想 実施計画 2007-2010」(以下「神奈川力構想」という。)においても、小・中・高等学校を通じ、英語による実践的コミュニケーション能力をはぐくむ取組を推進しています。

現在、小学校における英語活動は、平成 10 年告示の小学校学習指導要領で新設された「総合的な学習の時間」の中で国際理解教育の一環として行われるなど、各学校の創意工夫により実施されています。しかし、活動の内容や授業時間数などには相当のばらつきが見られます。このため、「答申」では「(前略)教育の機会均等の確保と中学校との円滑な接続等の観点から、国として各学校において共通に指導する内容を示すことが必要である。」としています。

### 2 目標と内容

国際性豊かな人材を育成するためには、小学生段階から、英語等の外国語に慣れ親しんだり、異文化交流を体験したりすることを通じて、国語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する関心を高めるとともに、多様なものの見方や考え方があることに気付いていくことが必要です。

「答申」では、「小学校段階では、(中略)国語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ることを目標として、外国語活動を行うことが適当であると考えられる。」と述べられました。そして、英語活動を原則とした外国語活動を、「総合的な学習の時間」とは別に小学校高学年において年間 35 単位時間位置付け、その指導内容については、次のことを基本とす

ることが適当であるとされました。

（前略）身近な場面やそれに適した言語や文化に関するテーマを設定し、外国語指導助手（以下「ALT」という。）の活用等を通して、英語でのコミュニケーションを体験させるとともに、場面やテーマに応じた基本的な単語や表現を用いて、音声面を中心とした活動を行い、言語や文化について理解させる。

小学校における英語活動は、中学校段階の英語教育を前倒しするということではありません。小学校段階では、子どもたちの興味・関心、学習経験、学習環境などを十分に考慮し、子どもたちが英語と適切にかかわりをもつことができるような活動を実践することが大切です。

## □ 本書における英語活動の基本的な考え方

### 1 目標

本書では、英語活動の「目標」を、「答申」の基となった平成18年3月の「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会外国語専門部会」における小学校段階の英語教育の目標についての考え方と、「神奈川力構想」の基となった平成16年の「神奈川力構想 プロジェクト51」を踏まえ、次のように設定しました。

子どもたちに言語や文化に興味・関心をもたせるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

### 2 目標を達成するために「子どもたちに身に付けさせたいこと」

子どもたちが言語や文化に興味・関心をもつようになるためには、まず、言語や文化に子どもたちが目を向けることができるように支援していくことが大切です。この

ことは、子どもたちの、国語や我が国の文化を含めた国際感覚の基礎を培い、子どもたちが異なる言語や文化をもつ人々とコミュニケーションを図っていくことと深くかかわっているといえます。

子どもたちの積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するためには、子どもたちが、聞こえてきた英語に対して「何て言ったのかな。」と想像力を働かせて、「たぶんこんなことを言ったのかな。」と推測し、「こんなことを伝えたいなあ...。」と考え、実際に自分の気持ちや言いたいことを表現し伝えようとする、という体験を繰り返すことができるように、子どもたちを支援していくことが大切です。

そこで、本書における英語活動の「目標」を達成するために、次の三つを「子どもたちに身に付けさせたいこと」としました。

言語や文化に目を向けること

相手の話を聞いて、その内容を理解しようとする

態度や知っている言葉で、自分の気持ちや言いたいことを伝えようとする



### 3 本書に示した英語活動のポイント

#### (1) 「聞くこと」の重視

相手の話を聞いて、その内容を理解しようとする態度を育成するためには、子どもたちに、たくさんの言葉を聞かせ、その中から理解できる言葉を探させ、相手が伝えようとしていることを感じ取ろうとする気持ちをもたせることが大切です。相手の言っていることを理解したいと思う気持ちをわきたたせることがコミュニケーションの第一歩です。

## (2) 「興味・関心や意欲」を重視した英語活動

相手の話を聞き、理解しようとし、自分の気持ちや言いたいことを表現し伝えようとする態度を育成するためには、その活動が、子どもたちにとって「聞いてみよう。」「考えてみよう。」と思えるものでなくてはなりません。

このような活動を組み立てるに当たっては、興味・関心や意欲を抱かせるような、子どもたちにとって身近な事柄や場面、それらに適した言葉や文化に関するトピックに焦点を当てることが大切です。本書における英語活動では、子どもたちの「興味・関心や意欲」を重視し、主に次の点を考慮して、八つのトピックを選定し、15の活動内容を用意しました。

子どもたちにとってなじみや親しみがあり、カタカナ言葉で表現されることも多い「数」、「色」、「生き物」などを扱うこと。

子どもたちの日常生活に関することや、絵や動作に表しやすい具体性を伴った事柄を扱うこと。

教科等における既習内容を扱うこと。

### トピック

数[3]	食べ物[1]	生き物[4]
先生・友だち[1]	色・形[3]	体の部位[1]
地図[1]	月・曜日[1]	

これらのトピックを素材とした15の活動内容の一覧を5ページに掲載してあります。



活動内容一覧

<p>【数】(1) P.14 1 歌ってみよう Seven Steps! [活動のねらい] ・ 1 から 10 の数字を表す英語表現に慣れ親しむ。</p>	<p>【数】(2) P.18 2 たして 10 になる数は? the Count to Ten Game [活動のねらい] ・ 1 から 10 の数を聞き取るうとしたり、言おうとしたりする。 ・ 聞き取った数にある数をたして 10 になるように、その数を言う。 [取りあげる英語表現] ・ What number is this? ・ Seven and three is ten.</p>	<p>【数】(3) P.22 3 何匹いたかな? [活動のねらい] ・ 動物を表す単語を聞き取るうとする。 ・ 1~10 の数を言う。 [取りあげる英語表現] ・ How many cats are there on the board? ・ Do you like cats?</p>
<p>【食べ物】 P.26 4 レモンはいくつ? [活動のねらい] ・ 果物、数、色を表す単語を聞き取るうとしたり、言おうとしたりする。 [取りあげる英語表現] ・ What's this? ・ What fruits are there on the board? ・ Which fruits are red? ・ How many lemons are there on the sheet?</p>	<p>【生き物】(1) P.30 5 いったい、これは何だろう? 象だ! [活動のねらい] ・ 絵を見ながらヒントを聞き、どんな動物が推測しようとする。 ・ 動物を表す単語に慣れ親しむ。 [取りあげる英語表現] ・ What's this? ・ Is this an elephant?</p>	<p>【生き物】(2) P.34 6 手影絵で遊ぼう! [活動のねらい] ・ 手影絵を見てヒントを聞き、どんな動物が推測しようとする。 ・ 動物を表す単語に慣れ親しむ。 ・ 日本の文化に興味・関心をもつ。 [取りあげる英語表現] ・ What's this? ・ Is this a fox? ・ Let's try <i>te-kagee</i>.</p>
<p>【生き物】(3) P.38 7 いなくなった動物は? [活動のねらい] ・ 動物を表す単語を聞き取るうとしたり、言おうとしたりする。 [取りあげる英語表現] ・ What animal is this? ・ What animal is missing?</p>	<p>【生き物】(4) P.42 8 どんな動物がいるかな? [活動のねらい] ・ 動物を表す単語を聞き取るうとしたり、言おうとしたりする。 [取りあげる英語表現] ・ What animals are there on the cards? ・ What animals live in Africa?</p>	<p>【先生・友だち】 P.46 9 友だちや先生の好きなものは? [活動のねらい] ・ “Do you like ~?” という英語表現に慣れ親しむ。 ・ 友だちや先生の好きなことを知り、友だちや先生のことに興味・関心をもつ。 [取りあげる英語表現] ・ Do you like ~?</p>
<p>【色・形】(1) P.50 10 星形のカードは何色? 赤色のカードはどんな形? [活動のねらい] ・ 色や形を表す単語を聞き取るうとしたり、言おうとしたりする。 [取りあげる英語表現] ・ What color is this? ・ What shape is this?</p>	<p>【色・形】(2) P.54 11 虹(にじ)ってどんな色かな? [活動のねらい] ・ 色や数字を表す単語を聞き取るうとしたり、言おうとしたりする。 [取りあげる英語表現] ・ What color is this? ・ Color number one red. ・ What color is number one? ・ What number is red?</p>	<p>【色・形】(3) P.58 12 いろいろな形で絵を描いてみよう! [活動のねらい] ・ 形を表す単語を聞き取るうとしたり、言おうとしたりする。 [取りあげる英語表現] ・ Let's draw a picture with shapes! ・ How many triangles did you use?</p>
<p>【からだの部位】 P.62 13 描いた絵見せて! どんな動物になった? [活動のねらい] ・ 人や生き物のからだの部位を表す単語を聞き取るうとしたり、言おうとしたりする。 [取りあげる英語表現] ・ Touch your ~. ・ What body part is this? ・ Draw an animal with ~.</p>	<p>【地図】 P.66 14 地図記号カードで遊ぼう! [活動のねらい] ・ 建物や場所を表す単語を聞き取るうとしたり、言おうとしたりする。 ・ 自分たちが住んでいる地域に興味・関心をもつ。 [取りあげる英語表現] ・ What's this? ・ How about this? ・ How many cards do you have? ・ What cards do you have? ・ Who has the card for ~?</p>	<p>【月・曜日】 P.70 15 生まれた日は何曜日だった? [活動のねらい] ・ 月、曜日を表す単語を聞き取るうとしたり、言おうとしたりする。 [取りあげる英語表現] ・ What month is this? ・ My birthday is ~. ・ Who was born in ~? ・ I was born on ~. ・ How about you?</p>

いろいろな活動があっておもしろそうですね。



子どもたちが英語に慣れ親しむことができそうですね。



## □ 英語活動の充実を図るために

### 1 担任が主体的に授業案や教材の作成を行いましょう！

子どもたちの発達段階、学習段階、興味・関心などを熟知している担任が授業案や教材を作成することが大切になります。ALT とのチーム・ティーチングによる授業を行う場合においても、担任が主体的にかかわりましょう。

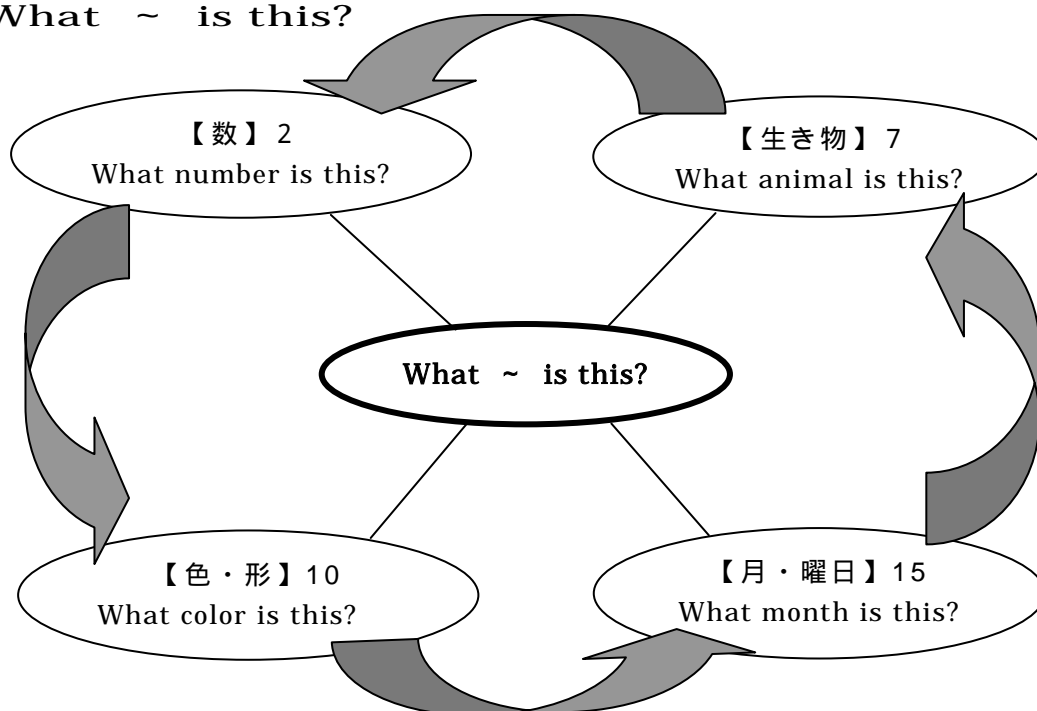
### 2 同じ英語を繰り返し聞かせましょう！

子どもたちが英語に慣れ親しむためには、一回の活動で聞いた英語が、それ以降の活動の中でも繰り返し聞くことができるようにすることが大切です。子どもたちの興味・関心や学習経験に合わせて、扱う内容や扱い方を変化させた様々な活動を用意し、その中で同じ英語を繰り返し聞かせるように工夫する必要があります。

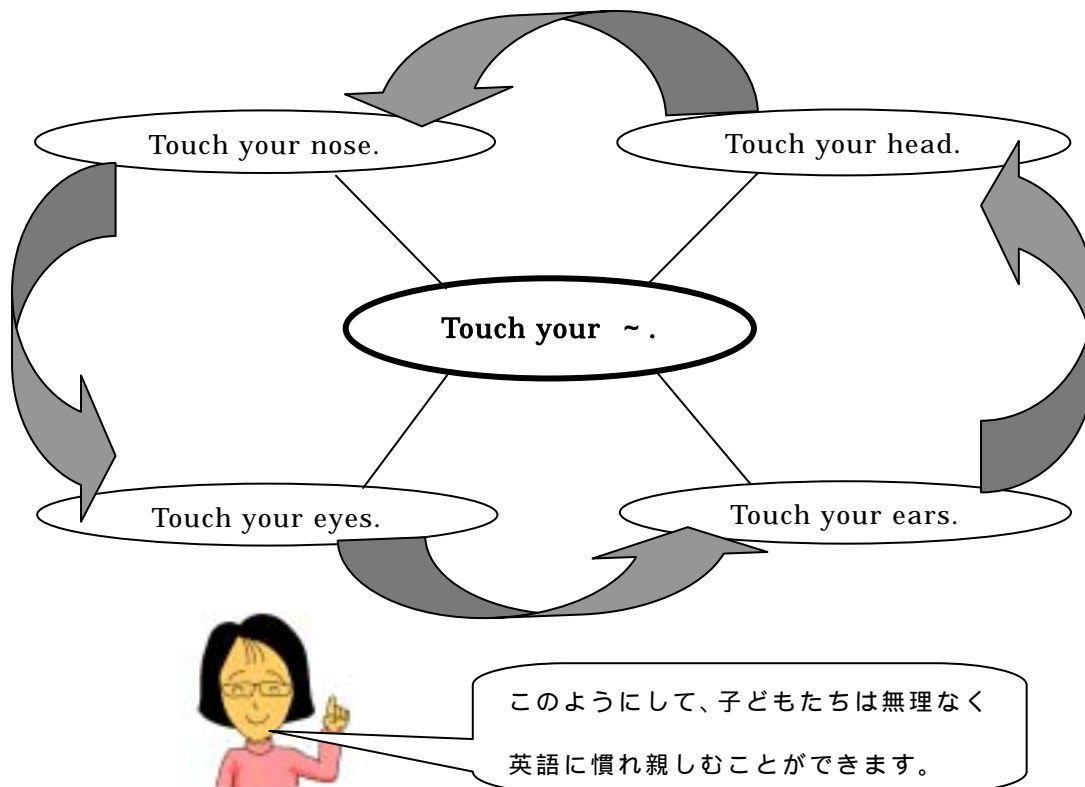
活動内容一覧（5 ページ）に示した活動では、同じような英語表現を、トピックや活動内容を変えて、繰り返し子どもたちに聞かせるようにしてあります。また、一つの活動においても、同じような英語表現を繰り返し聞かせるようにしてあります。

トピックや活動内容を変えて、同じような英語表現を繰り返し聞かせることの例

What ~ is this?



一つの活動において、同じような英語表現を繰り返し聞かせることの例  
**Touch your ~ . 【からだの部位】13**



3 身近な教材や視聴覚教材を活用したり、ジェスチャーやデモンストレーションを示したりしましょう！

子どもたちの興味・関心や意欲をかき立てるために、実物や絵、写真、カードなどの身近な教材や視聴覚教材を効果的に活用することが大切です。これらを使いながら、表情豊かに子どもたちに語りかけたりジェスチャーを見せたりしましょう。また、ティーム・ティーチングでは、担任とALTがデモンストレーションをすることで、子どもたちに英語を一層身近に感じさせることができます。



#### 4 子どもたちの様々な反応を認め、「伝わった」と実感させましょう！

聞いた英語に対する子どもたちの反応は様々です。子どもたちが先生の指示や質問に対して、黙って行動で示す、日本語で答える、しぐさで答える、単語のみで答えるだけでも、子どもたちの反応を認め、励ましたり褒めたりすることが大切です。

このようにして、「伝わった」という達成感を積み上げることで、「積極的にコミュニケーションに挑戦してみよう」という、子どもたちの意欲を少しずつ高めていくことができます。



#### 5 ALT と積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を示しましょう！

ティーム・ティーチングの活動では、「子どもたちと一緒に活動に参加する」という意識で授業に臨むことです。このような形で英語を通じて子どもたちとかわかることは、先生も含むクラス全体に楽しく学べる雰囲気をもたらします。そして、コミュニケーションを図るために必要となる、子どもたちの積極的な態度がはぐくまれることとなります。

#### 6 あいさつなどの英語表現を使って、英語に親しむ雰囲気づくりに努めましょう！

日常的なあいさつや、お礼とそれに対応する際の表現など、コミュニケーションを円滑に進めるための英語表現を授業中意識的に繰り返し用いることで、授業の中に英語によるコミュニケーションの雰囲気をつくり出すことができます。そして、子どもたちは使われる表現にも慣れ親しんでいきます。

子どもたちは、先生のジェスチャーやデモンストレーションをヒントにして、言われて

いることの内容を推測することができます。しかし、そのようにしても意味を伝えにくい場合もあるかもしれません。そのようなときは、必要に応じて日本語で説明しましょう。

ここでは、日常的に使える英語表現の例をいくつか示しますので、授業中に使ってみてください。

【あいさつをするとき】

付録 CD に音声 を収録してあります。

A: Hi. Good morning. [または Good afternoon.] How are you?

B: Good morning. [または Good afternoon.] Fine, thank you. And you?

A: Fine, thank you.

【授業を始めるとき】

- ・ Are you ready? (準備はいいですか。)
- ・ Let's start. (始めましょう。)



【頼むとき】

- ・ Will you open the window? / Open the window, please. (窓を開けてください。)
- ・ Will you shut the window? / Shut the window, please. (窓を閉めてください。)

【手伝ってもらいたいとき】

- ・ Can you help me? / Help me, please. (手伝ってください。)

【お礼を言うとき】

A: Thank you.

B: You are welcome. (どういたしまして。)



【Yes./No.の返事を促すとき】

- ・ Yes? を示すジェスチャーをして
- ・ No? ×を示すジェスチャーをして

【相手の言ったことが聞こえないとき】

- ・ Pardon? / Will you say that again? (もう一度言ってください。)

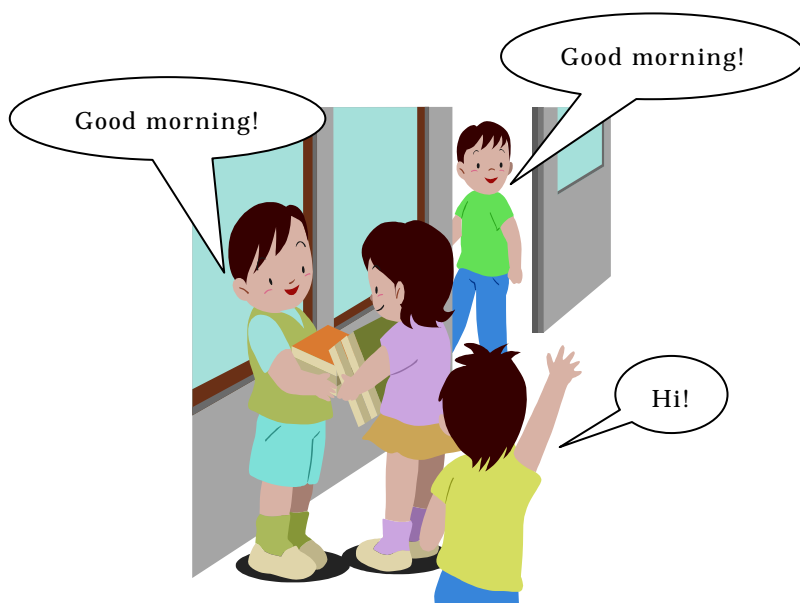
【褒めるとき】

- ・ Good job. (よくできました。)
- ・ Wonderful! (素晴らしいですね!)

【授業を終えるとき】

A: That's all for today. (今日はこれ終わりです。) See you. (また会いましょう。)

B: See you.



授業で日常的に使える英語表現については、「先生が授業で使用する英語表現」として、本書 75～78 ページに掲載してありますので、参照してください。

英語に親しむ雰囲気づくり

子どもたちが、英語を聞き間違えたり、言い間違えたり、正確に発音することができなかつたりしても、何をしたかったのか、何を言いたかったのかが先生に伝わっているのであれば、逐一その間違いを指摘してやり直しや言い直しをさせる必要はありません。先生が言い直して、その英語を何度でも聞かせればよいのです。

自然に、少しずつ、子どもたちが発話したり、子どもたち同士の間でも英語が使われるようになっていったりするように、子どもたちを支援していくことが大切です。

## □ 活動集の特徴と活用方法

本書では、1～15の活動ごとに、4ページにわたって説明しています。最初の1～2ページでは活動の「内容」と「活動の参考資料」、次の3～4ページでは見開きで、「活動の流れ」に沿って、「担任(ALT)の動き」、「児童の活動」、「授業の進め方」について説明しています。

1 ページ目 活動の「内容」について

1 トピック

活動名	
活動のねらい	
取りあげる英単語	
取りあげる英語表現	
準備するもの 付	
活動内容/活動の流れ	
<p>この欄には、どのような活動内容なのかを、また、どのように活動を進めていけばよいのかを具体的に示しました。</p>	

トピック名

複数ある場合には番号を付記しました。

活動名

活動の内容をイメージしやすいような名称にしました。

活動のねらい

子どもたちが何をすればよいのかを示しました。

この「活動のねらい」を念頭に置いて授業を進めます。

取りあげる英単語

授業で先生が子どもたちに聞かせる英単語の例を示しました。

同じ活動を何回かに分けて行うことができるように配慮して、活動によっては英単語を多めに示してあります。1回の活動ですべての英単語を扱うということではありません。

「取りあげる英単語」は付録CDに収録されていますので、聞いて練習することもできます。

取りあげる英語表現

先生が子どもたちに聞かせる主な英語表現の例を示しました。

「取りあげる英語表現」は付録CDに収録されていますので、聞いて練習することもできます。

準備するもの

絵、写真、カードなど、各活動を行う際に必要となるものを示しました。

項目名の欄に「付」とあるものは付録CDに収録されていますので、活用することもできます。



2 ページ目 「活動の参考資料」について

活動の参考資料として、必要に応じて「こんな英単語も取りあげることができます」、「こんな英語表現も取りあげることができます」、「ここで使える絵カードやワークシート」、「ひとくちメモ」などの項目を設け、関連事項を掲載してあります。

### 3～4 ページ目

「活動の流れ」、「担任(ALT)の動き」、「児童の活動」、「授業の進め方」について

このページには、活動の流れ、どのような英語表現をどのように子どもたちに聞かせればよいのか、予想される子どもたちの反応、どのように活動を進めればよいのかを示してあります。

ALT とのチーム・ティーチングの打合せを行う場合には、ALT に「担任(ALT)の動き」の部分をスクリプト(台本)として示すことで、どのような活動を行うのかを短時間で伝えることができます。

【ALT との打合せで使用する英語表現の例】

Can we talk about the next class?

( 次回の授業について話をしたいのですが。)

This is the activity plan.

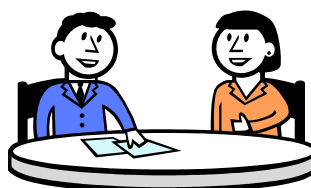
(これが活動プランです。)

Please follow the script.

(スクリプトに従って行ってください。)

Please use English based on this script.

(このスクリプトに基づいて英語を使ってください。)



付録 CD に音声を収録してあります。

スクリプトの音声は付録 CD に収録されていますので、聞いて練習することもできます。また、「授業の進め方」に沿って CD の音声を流すだけでも授業を行えるようにしてあります。スクリプト中の【1】、【2】……は、収録されている音声のまとまりごとの番号を示し、△マークは「そこで CD をとめる」ことを示しています。

なお、各活動についての音声の収録内容については、86 ページを参照してください。

### ～ 先生方へ ～

「取りあげる英単語」、「取りあげる英語表現」、「スクリプトに示されている英語表現」は、その活動で先生が取りあげ、使用するものの例を示してあるだけです。子どもたちにそれらを言わせたり覚えさせたりすることを目的としてはいません。その活動をとおして、あくまでも子どもたちに聞かせ、慣れ親しませることを目指しましょう。

## トピック別活動内容一覧

トピック	活 動 名 数字は活動の通し番号	ページ	付録 CD 収録 の絵カードや ワークシート 等の有無
数	1 歌ってみよう Seven Steps!	14 ~ 17	
	2 たして 10 になる数は? the Count to Ten Game	18 ~ 21	
	3 何匹いたかな?	22 ~ 25	
食べ物	4 レモンはいくつ?	26 ~ 29	
生き物	5 いったい、これは何だろう? 象だ!	30 ~ 33	
	6 手影絵で遊ぼう!	34 ~ 37	
	7 いなくなった動物は?	38 ~ 41	
	8 どんな動物がいるかな?	42 ~ 45	
先生・友だち	9 友だちや先生の好きなものは?	46 ~ 49	
色・形	10 星形のカードは何色? 赤色のカードは どんな形?	50 ~ 53	
	11 虹(にじ)ってどんな色かな?	54 ~ 57	
	12 いろいろな形で絵を描いてみよう!	58 ~ 61	
からだの 部位	13 描いた絵見せて! どんな動物になっ た?	62 ~ 65	
地図	14 地図記号カードで遊ぼう!	66 ~ 69	
月・曜日	15 生まれた日は何曜日だった?	70 ~ 73	



# 1 トピック 数(1)

活動名	歌ってみよう Seven Steps!
活動のねらい	・ 1～10 の数字を表す英語表現に慣れ親しむ。
取りあげる 英単語	<数> one (一) two (二) three (三) four (四) five (五) six (六) seven (七) eight (八) nine (九) ten (十)
準備するもの 付	・ 1 から 10 までの数字カード ※カードを使用せず、数字を板書してもよいでしょう。
<b>活動内容/活動の流れ</b>	
<p>おなじみの Seven Steps という曲を様々な歌い方で歌いながら、1～10 の数字を表す英語表現に慣れ親しむ活動です。</p> <p>皆でいっしょに、Seven Steps を歌う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 20px; text-align: center;"> <p>— Seven Steps —</p> <p>One, two, three, four, five, six, seven.          One, two, three, four, five, six, seven.          One, two, three.          One, two, three.          One, two, three, four, five, six, seven.          One, two, three.          One, two, three.          One, two, three, four, five, six, seven.</p> </div> <p>速度をだんだんと速くして、歌う。</p> <p>児童の様子を見ながら、他の歌い方で歌う。</p>	

## こんな歌い方で歌うことができます

**Sing fast.** (スピードをあげて歌ってください。)

**Sing faster.** (さらにスピードをあげて歌ってください。)

**Sing slowly.** (ゆっくり歌ってください。)

**Sing more slowly.** (さらにゆっくり歌ってください。)

**Sing backwards from seven to one.** (7～1の順番で歌ってください。)

**Sing forwards from four to ten.** (4～10の順番で歌ってください。)

**Sing backwards from ten to four.** (10～4の順番で歌ってください。)

**Sing in a whisper.** (小さな声でささやくように歌ってください。)

**Sing in a low voice.** (低い声で歌ってください。)

**Sing in a high voice.** (高い声で歌ってください。)

**Sing at random.** (先生がランダムに数字を指さして歌ってください。)

**Stand on your number and say it.**

(列ごとに担当の番号を決めて自分の番号で立って歌ってください。)

**Touch your nose on three and touch your stomach on five.**

(3で鼻に、5でお腹に触れてください。)

**Clap on seven.** (7で手をたたいてください。)

**Clap on the odd numbers, one, three, five and seven.**

(奇数のところで手をたたいてください。)

**Clap on the even numbers, two, four and six.**

(偶数のところで手をたたいてください。)

## ひとくちメモ

児童が歌う前に、まず担任 (ALT) が歌って見本を示すと歌いやすくなります。

# 1 トピック 数(1)

活動の流れ	担任 (ALT) の動き スクリプトとして活用してください。
<p>①皆でいっしょに、Seven Steps を歌う。</p>	<p><b>【 1 】</b></p> <p>Now, let's sing the song, "Seven Steps".            (それでは、「セブン・ステップス」を歌いましょう。)</p> <p>Are you ready? Here we go. (準備はいいですか。さあ、いきましょう。)</p> <p>◎皆で「セブン・ステップス」を歌う。</p> <p>♪"Seven Steps" ♪</p> <p>One, two, three, four, five, six, seven.            One, two, three, four, five, six, seven.            One, two, three.            One, two, three.            One, two, three, four, five, six, seven.            One, two, three.            One, two, three.            One, two, three, four, five, six, seven.</p> <p>Good! (上手です。)</p>
<p>②速度をだんだんと速くして、歌う。</p>	<p><b>【 2 】</b></p> <p>Now, let's sing fast. (今度は速く歌いましょう。)</p> <p>Are you ready? Here we go. (準備はいいですか。さあ、いきましょう。)</p> <p>◎「セブン・ステップス」を①の時よりも速い速度で歌う。</p> <p>♪"Seven Steps" ♪</p> <p>Very good! (とても上手です。)</p>
<p>③児童の様子を見ながら、他の歌い方で歌う。</p>	<p><b>【 3 】</b></p> <p>Now, let's sing backwards from seven to one. Let's try!            (今度は7～1の順番で歌ってみましょう。やってみましょう。)</p> <p>◎「セブン・ステップス」を7～1の順番で歌う。</p> <p>♪"Seven Steps" ♪</p> <p>Wonderful!(すばらしい。)</p>

児童の活動	授業の進め方
<p>「セブン・ステップス」を歌う。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>🔔の箇所で CD をとめて、英語（または日本語）で進めてください。</p> </div> <p>※児童が歌う前に、担任（ALT）が歌ってみせると、児童は歌いやすくなります。</p> <p>🔔 上手に歌えた時には、 <b>Great! Wonderful!</b> などと言って子どもたちを褒めてあげるとよいでしょう。</p>
<p>「セブン・ステップス」をやや速く歌う。</p>	<p>🔔 速く歌うことに慣れていなくても、速く歌おうとしている姿勢を褒めてあげるとよいでしょう。</p>
<p>「セブン・ステップス」を、7～1の順番で歌う。</p>	<p>🔔 慣れてきたら他の歌い方で歌うのもよいでしょう。</p>

## 2 トピック 数(2)

活動名	たして 10 になる数は？ The Count to Ten Game
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1～10 の数を聞き取ろうとしたり、言おうとしたりする。</li> <li>・ 聞き取った数にある数をたして 10 になるように、その数を言う。</li> </ul>
取りあげる英単語	<数> one (一) two (二) three (三) four (四) five (五) six (六) seven (七) eight (八) nine (九) ten (十)
取りあげる英語表現	What number is this? (この数字は何ですか。) Seven and three is ten. ( $7 + 3 = 10$ )
準備するもの 付	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレイルームのような机やイスの無い教室</li> <li>・ 1～10 までの数字カード</li> </ul> ※カードを使用せず、数字を板書してもよいでしょう。
<b>活動内容/活動の流れ</b>	
<p>ゲームを楽しみながら、1～10 までの数字を表す英語表現に慣れ親しむ活動です。</p> <p><b>数字カードを使い、クラス全体で 1～10 までの数を言う。</b>          ※最初は順番どおりにカードを見せて言います。慣れてきたら、カードをシャッフルし、アトラダムに言います。</p> <p>担任 (ALT) が 1～10 までの数を一つ言って、児童がそれにたして 10 になる数字を言う。</p> <p><b>6～7 人のグループを作り、円になるよう指示し、ゲームのルールを説明する。</b></p> <p>ルール          各グループで円になり、スタートの児童 A は、1～10 のうちどれでも好きな数を左隣の児童 B に言います。          児童 B は、その数にたして 10 になる数を言います。その直後、左隣の児童 C に 1～10 のうちどれでも好きな数を言います。これを次の例のように繰り返します。</p> <p>例          児童 A: “One!” → 児童 B: “Nine. Three!” → 児童 C: “Seven. Four!”・・・</p> <p>※制限時間 (1 分～3 分) を与えて、その時間内で何周できるか競います。制限時間については、児童の状況や反応に合わせて調整します。</p> <p><b>ゲームをする。</b></p>	

こんな英単語も取りあげることができます

eleven (十一)   twelve (十二)   thirteen (十三)   fourteen (十四)  
fifteen (十五)   sixteen (十六)   seventeen (十七)   eighteen (十八)  
nineteen (十九)   twenty (二十)   hundred (百)   thousand (千)

こんな工夫も可能です

子どもたちが 11 以上の数、さらには 100 の位や 1000 の位の数を言えるようになった段階では、「たして 15、20... 50、100、150、200 になる数は？」というように、数を増やすことによって活動のレベルを上げることができます。また、「ひいて 15、20... 50、100、150、200 になる数は？」というように引き算で行うことでも活動のレベルを上げることができます。

ひとくちメモ

引き算、かけ算、割り算は次のように表現します。

引き算 Nine minus four is five. ( $9 - 4 = 5$ )

かけ算 Two times three is six. ( $2 \times 3 = 6$ )

割り算 Fifteen divided by five is three. ( $15 \div 5 = 3$ )

小数は次のように表現します。※小数は point (ポイント) です。

3.14 three point fourteen

20.708 twenty point seven o eight または twenty point seven zero eight

分数は次のように表現します。

$\frac{1}{2}$  one half    $\frac{1}{3}$  one third    $\frac{1}{4}$  one fourth または one quarter

$\frac{2}{3}$  two thirds    $\frac{3}{4}$  three fourths または three quarters    $\frac{4}{5}$  four fifths

※分子を整数、分母を序数で表します。ただし、 $\frac{1}{2}$  は one second とはなりません。

## 2 トピック 数(2)

活動の流れ	担任 (ALT) の動き スクリプトとして活用してください。
① 数字カードを使い、クラス全体で1～10までの数を言う。	<p><b>【1】</b></p> <p>Look at these numbers. (これらの数字を見てください。)</p> <p>Everyone, please. (みなさんどうぞ。)</p> <p>"One, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten!" (一、二、三、四、五、六、七、八、九、十。)</p> <p>カードをシャッフルし、アトランダムに一枚ずつ見せて</p> <p>What number is this? (これはいくつですか。) <b>Eight!</b> (八。)</p> <p>Yes, this number is eight. (そうです。これは八です。)</p> <p>※すべての数字について同様に行います。</p>
② 担任 (ALT) が1～10までの数を一つ言って、児童がそれにたして10になる数字を言う。	<p><b>【2】</b></p> <p>Now, let's play a game. (それではゲームをしましょう。)</p> <p>This is the Count to Ten Game. (これは、カウント・トゥ・テン・ゲームと言います。)</p> <p>First, I say a number from one to ten. (まず私が一から十の数字から一つ選んで言います。)</p> <p>For example, I say, "Seven". (例えば、「七」と言います。)</p> <p>Then, you say, "Three". <b>Seven and three is ten, right?</b> (するとみんなは「三」と言います。七たす三は十になるからです。) <b>OK?</b> (よろしいですか。)</p>
③ 6～7人のグループを作り、円になるよう指示し、ゲームのルールを説明する。	<p><b>【3】</b></p> <p>Next, let's make groups of six or seven. <b>OK?</b> (次に6人～7人のグループを作ります。いいですか。)</p> <p>Then, let's make a circle. (そうしたら、円になってください。)</p> <p>◎英語または日本語でルールを説明する。</p> <p>Now, look at this group. (それではこのグループを見てください。)</p> <p>A, you say, "Seven", for example. (例えばAさんが「七」と言います。)</p> <p>Next, B, you say, "Three". (次にBさんは「三」と言います。)</p> <p>Seven and three is ten. (七たす三は十ですから。)</p> <p>Then, B, you say a number, for example, "Six". (今度はBさんが一つの数字、例えば「六」と言います。)</p> <p>C, you say, "Four", and then you say a number. (Cさん、あなたは「四」と言ってから数字の一つ言います。)</p> <p>We play the game like this. (このようにゲームを続けます。)</p>
④ ゲームをする。	<p><b>【4】</b></p> <p>Now, let's play the game! (それではゲームを始めましょう。)</p> <p>You have one minute. (制限時間は一分です。)</p> <p>Ready, go! (用意、はじめてください!)</p>

児童の活動	授業の進め方
<p>示されたカードの数字を英語（または日本語）で言おうとする。</p> <p>例 「八。」 “Eight!”</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>🔊の箇所では CD をとめて、英語（または日本語）で進めてください。</p> </div> <p>🔊 CD をとめて、児童と一緒に数字を確認してもよいでしょう。</p>
<p>たして十になる数字を英語（または日本語）で言おうとする。</p> <p>例 「三。」 “Three!”</p>	<p>🔊 CD をとめて、たして十になる数を言う練習を児童と一緒にしてもよいでしょう。</p>
<p>英語または日本語の説明を聞いてルールを理解しようとする。</p>	<p>🔊 CD をとめて、日本語でルールを説明してもよいでしょう。</p>
<p>たして十になる数字を英語または日本語で言おうとする。</p>	<p>🔊 CD をとめて、人数の少ないグループに入ってゲームに参加するのもよいでしょう。</p>



### 3 トピック 数(3)

活動名	何匹いたかな？
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物を表す単語を聞き取ろうとする。</li> <li>1～10の数を言う。</li> </ul>
取りあげる英単語	<数> one (一) two (二) three (三) four (四) five (五) six (六) seven (七) eight (八) nine (九) ten (十) <動物> animal (動物) dog (犬) bear (クマ) elephant (象) lion (ライオン) tiger (トラ) cat (猫)
取りあげる英語表現	How many cats are there on the board? (黒板にネコは何匹いますか。) Do you like cats? (猫は好きですか。)
準備するもの 付	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の動物の絵が描かれたクラス全体掲示用模造紙</li> <li>※模造紙ではなく、動物の絵が描かれた画用紙を用いたり、コンピュータとプロジェクターを使用してスクリーンに動物の絵を映し出すのもよいでしょう。</li> </ul>
<b>活動内容/活動の流れ</b>	
<p>動物が何匹(何頭)いるかを尋ねながら、数や、動物を表す英語表現に慣れ親しむ活動です。</p> <p>いろいろな動物の絵が複数描かれた模造紙を黒板に掲示し、動物が何匹(何頭)いるか数える。</p> <p>いろいろな種類の動物の絵が複数描かれた別の模造紙を黒板に掲示し、10秒間見るように指示する。            ※制限時間は児童の反応を見ながら10～30秒の間で設定しましょう。</p> <p>絵が見えないように模造紙を半分に折り返すなどして、模造紙に描かれていた動物の数等について尋ねる。            ※画用紙を用いる場合は、画用紙を裏返すとよいでしょう。また、プロジェクターを使う場合は、レンズを隠すとよいでしょう。            ※質問ごとに模造紙を見せて、答えを確認しましょう。</p>	

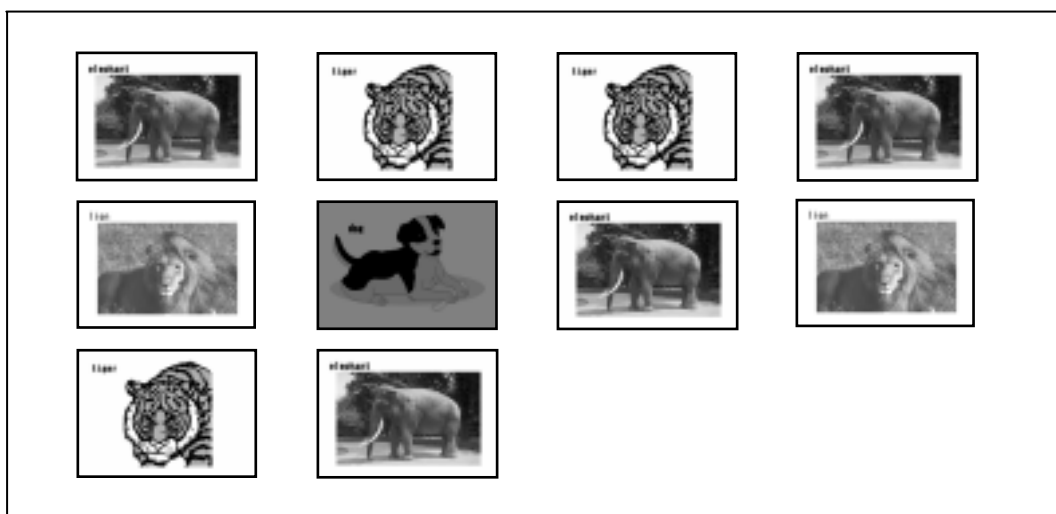
こんな英単語も取りあげることができます

動物だけでなく、果物や野菜を表す英単語も取りあげることができます。  
fruit (果物)    lemon (レモン)    strawberry (イチゴ)    melon (メロン)  
apple (リンゴ)    banana (バナナ)    orange (オレンジ)  
vegetable (野菜)    carrot (ニンジン)    cabbage (キャベツ)  
pumpkin (カボチャ)    onion (タマネギ)








こんな英語表現も取りあげることができます

There is a dog on the board. (黒板には犬が1匹います。)  
There are eleven dogs on the board. (黒板には犬が11匹います。)  
Is there a cat on the board? (黒板には猫が1匹いますか。)  
Are there three cats on the board? (黒板には猫が3匹いますか。)  
How many animals are there on the board?  
(黒板には動物が何匹いますか。)  
How many vegetables are there on the board?  
(黒板には野菜がいくつありますか。)  
How many fruits are there on the board?  
(黒板には果物がいくつありますか。)

ここで使える模造紙の例



### 3 トピック 数 ( 3 )

活動の流れ	担任 (ALT) の動き スクリプトとして活用してください。
<p>①いろいろな動物の絵が複数描かれた模造紙を黒板に掲示し、動物が何匹(何頭)いるか数える。</p>	<p><b>【 1 】</b>            Look at the board. (黒板を見てください。)            You can see some animals on the board. (黒板には動物がいますね。)            Look at this animal. (この動物を見てください。)            Is this a lion? (これはライオンですか。) No! (違います。)            Is this a tiger? (これはトラですか。) No! (違います。)            Is this an elephant? (これは象ですか。)            Yes! Elephant. (そうです。象です。)            Do you like elephants? (象は好きですか。)            How many elephants are there on the board? (黒板には象が何頭いますか。)            One, two, three... . Yes. Four. (一, 二, 三... . そう四頭です。) </p>
<p>②いろいろな種類の動物の絵が複数描かれた別の模造紙を黒板に掲示し、10秒間見るように指示する。</p>	<p><b>【 2 】</b>            Now, look at the animals on the board for 10 seconds.            (それでは、黒板の動物を10秒間見てください。) </p>
<p>③絵が見えないように模造紙を半分に折り返すなどして、模造紙に描かれていた動物の数について尋ねる。</p>	<p><b>【 3 】</b>            ◎模造紙が児童に見えないように半分に折り返すなどして            Now, I'll ask you some questions. (それでは、質問をします。)            How many animals are there on the board? (黒板には動物は何匹いますか。)             ◎模造紙の絵を見せて            One, two, three,..... . Yes. Ten! (一, 二, 三... . そう十ですね。)</p> <p><b>【 4 】</b>            Is there a dog on the board? (黒板に犬はいますか。) </p> <p><b>【 5 】</b>            ◎模造紙の絵を見せて            Yes, there is a dog on the board. (そうです。黒板には犬がいます。)            Do you like dogs? (犬は好きですか。) </p> <p><b>【 6 】</b>            ◎再び模造紙を半分に折り返すなどして            Next, how many tigers are there on the board?            (では、黒板にトラは何頭いますか。) </p> <p><b>【 7 】</b>            ◎模造紙の絵を見せて            Three! (三頭いますね。) Do you like tigers? (トラは好きですか。)            Yes? No? I like tigers very much. (好きですか、きらいですか。私は大好きです。) </p>

児童の活動	授業の進め方
<p>英語で聞かれた質問を聞いて、“Yes!”か “No!” で答えようとする。また、動物が何匹（何頭）いるか言おうとする。</p> <p>例 “Yes!” “No!” 「四。」 “Four!”</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>🔊の箇所では CD をとめて、英語（または日本語）で進めてください。</p> </div> <p>🔊 How many～?という表現に慣れることができるように、身近なものを使って数える練習をするのもよいでしょう。</p>
<p>黒板をよく見る。何の動物が何匹（何頭）いるかを覚える。</p>	<p>🔊 10 秒後に、模造紙を半分に折り返すなどして、絵が見えない状態にします。</p>
<p>質問に英語（または日本語）で答えようとする。</p> <p>例 「十。」 “Ten!”  「はい。」 “Yes!”  「いいえ。」 “No!”  「四。」 “Four!”</p>	<p>🔊 質問する時は絵を隠し、答えを確認する時は絵を見せるとよいでしょう。後に続く🔊の箇所についても同様です。</p> <p>※児童の状況によって、動物の絵を増やしたり、動物以外の絵を入れておいたりするなどの工夫をすることができます。</p>

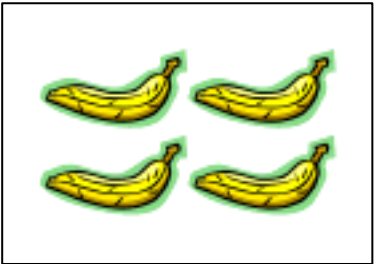
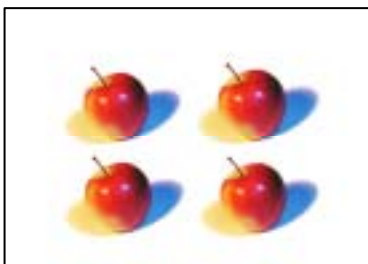
## 4 トピック 食べ物

活動名	レモンはいくつ？
活動のねらい	・果物、数、色を表す単語を聞き取ろうとしたり、言おうとしたりする。
取りあげる英単語	<果物> fruit (果物)    lemon (レモン)    banana (バナナ) apple (りんご)    strawberry (いちご) <色> yellow (黄色)    red (赤)
取りあげる英語表現	What's this? (これは何ですか。) What fruits are there on the board? (黒板にはどんな果物がありますか。) Which fruits are red? (赤色の果物はどれですか。) How many lemons are there on the sheet? (模造紙にはレモンがいくつありますか。)
準備するもの 付	・果物の絵が描かれたクラス全体掲示用模造紙 ※模造紙ではなく、果物の絵が描かれた画用紙を用いたり、コンピュータとプロジェクタを使用してスクリーンに果物の絵を映し出すのもよいでしょう。
<b>活動内容/活動の進め方</b>	
<p>果物の名前、数、色を表す英語表現に慣れ親しませる活動です。</p> <p>いろいろな種類の果物のカードをはった模造紙を見せて、果物の名前や色について尋ねる。 ※カードを模造紙にはる代わりに、袋の中に入れておいて袋から出したり戻したりしながら活動するのもよいでしょう。 ※児童が活動に慣れてきたら必要に応じてカードを加えるとよいでしょう。</p> <p>模造紙を半分に折り返すなどしてカードが児童に見えないようにする。 ※袋を使用する場合は、カードを袋の中に戻すとよいでしょう。 ※プロジェクタで投影する場合はレンズをふさぐとよいでしょう。</p> <p>模造紙にある果物の名前や数について尋ねる。 質問ごとに模造紙を見せて、答えを確認する。 ※確認が終わったら、また模造紙が見えないようにして尋ねます。</p>	

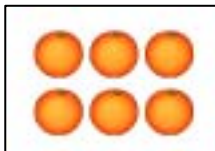
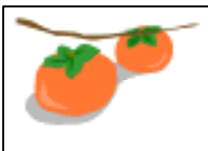
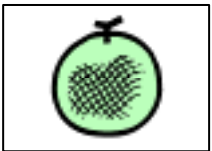
こんな英単語も取りあげることができます

vegetable (野菜) carrot (ニンジン) tomato (トマト) cabbage (キャベツ)  
 cucumber (キュウリ) eggplant (ナス) pumpkin (カボチャ) onion (タマネギ)  
 green pepper (ピーマン) sweet potato (サツマイモ) orange (オレンジ) peach (桃)  
 pear (ナシ) pineapple (パイナップル) cherry (サクランボ) grape (ブドウ)  
 persimmon (カキ) melon (メロン) green (緑の) purple (紫の)

ここで使えるカード



こんなカードも取りあげることができます





## 4 トピック 食べ物

活動の流れ	担任 (ALT) の動き スクリプトとして活用してください。
<p>①いろいろな種類の果物のカードをはった模造紙を見せて、果物の名前や色について尋ねる。</p> <p>※カードを模造紙にはる代わりに、袋の中に入れておいて袋から出したり戻したりしながら活動するのもよいでしょう。</p> <p>※児童が活動に慣れてきたら必要に応じてカードを加えるとよいでしょう。</p>	<p><b>【 1 】</b></p> <p>Today I have something wonderful. (どきどきするようなものがあります。)</p> <p>イチゴの絵を指して、Do you like this? (これは好きですか?)</p> <p>What's this? (これは何ですか?)</p> <p>An apple? No. This is not an apple. What is it? (リンゴかな。違うね。リンゴではない。何だろうか。)</p> <p>◎児童が答えたら、まずそのまま繰り返す。</p> <p>日本語の場合は“イチゴ—a strawberry?”などと英語表現を付け加えることも可能である。答えに対し Yes./No.と応じる。Yes.のときには、正解を英語で繰り返す。</p> <p>◎ここまでのやりとりを、リンゴ、バナナ、レモンについて繰り返す。</p> <p><b>【 2 】</b></p> <p>果物すべてを指して、</p> <p>What fruits are there on the board? (黒板にはどんな果物がありますか。)</p> <p>◎児童が答えたら、まずそのまま繰り返す。答えに対し Yes./No.と応じる。</p> <p>Yes.のときには、正解を英語で繰り返す。</p> <p>Which fruits are red? (赤色の果物はどれですか。)</p> <p>◎児童が答えたら、まずそのまま繰り返す。答えに対し Yes./No.と応じる。</p> <p>Yes.のときには、正解を英語で繰り返す。</p> <p>◎黄色い果物についても繰り返す。</p>
<p>②模造紙を半分に折り返すなどしてカードが児童に見えないようにする。</p>	<p><b>【 3 】</b></p> <p>Now, you can't see anything. (何も見えないね。)</p> <p>※袋を使用する場合は、カードを袋の中に戻すとよいでしょう。</p> <p>※プロジェクタで投影する場合はレンズをふさぐとよいでしょう。</p>
<p>③模造紙にある果物の名前や数について尋ねる。</p> <p>質問ごとに模造紙を見せて、答えを確認する。</p> <p>※確認が終わったら、また模造紙が見えないようにして尋ねます。</p>	<p><b>【 4 】</b></p> <p>Now, let's guess. (さて、どうかな。)</p> <p>What fruits are there on the sheet? (模造紙にはどんな果物がありますか。)</p> <p>◎児童が答えたら、まずそのまま繰り返す。答えに対し Yes./No.と応じる。</p> <p>Yes.のときには、正解を英語で繰り返す。</p> <p>How many lemons are there on the sheet? (模造紙にはレモンがいくつありますか。)</p> <p>◎児童が答えたら、そのまま繰り返す。</p> <p>How many apples are there on the sheet? (模造紙には黄色の果物がいくつありますか。)</p> <p>◎児童が答えたら、そのまま繰り返す。模造紙を見せて、答えを確認する。</p> <p>◎それぞれの模造紙について、このやりとりを繰り返す。</p>

児童の活動	授業の進め方
<p>担任（ALT）の説明を聞き、示される例を見る。</p> <p>例 「そうだね」 “Yes!”</p> <p>例 「イチゴだ！」 “Strawberry!”</p> <p>例 「イチゴ！」 “Banana!” “Apple!”</p> <p>例 「リンゴ！」 “Strawberry!”</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>🔔の箇所で CD をとめて、英語（または日本語）で進めてください。</p> </div> <p>🔔 児童の反応を見ながら、 What's this?（これは何かな。） (Is this a) ~?（～ですか。） Yes? No? を数回繰り返します。</p> <p>🔔 児童の反応を見ながら、 ～?（～ですか。） Yes? No? を数回繰り返します。</p> <p>🔔 児童の反応を見ながら、 ～?（～ですか。） Yes? No? を数回繰り返します。</p>
	<p>🔔 模造紙を半分に折り返すなどしてカードが児童に見えないようにします。</p>
<p>模造紙に何が描いてあったのか思い出そうとする。</p> <p>例 「イチゴ！」 “Banana!”</p> <p>例 「4個かな。」 “Two!”</p> <p>例 「なし！」「ゼロ！」</p>	<p>🔔 児童の反応を見ながら、 ～?（～ですか。） Yes? No? を数回繰り返します。</p> <p>🔔 児童の反応を見ながら、 One, two, three, four? How many? （1個、2個、3個、4個？ 何個？） を数回繰り返します。</p>



## 5 トピック 生き物(1)

活動名	いったい、これは何だろう？ 象だ！	
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を見ながらヒントを聞き、どんな動物か推測しようとする。</li> <li>・動物を表す単語に慣れ親しむ。</li> </ul>	
取りあげる英単語	<生き物> elephant (象) monkey (猿) tail (尾) ear (耳)	
取りあげる英語表現	What's this? (これは何ですか。) Is this an elephant? (これは象ですか。)	
準備するもの 付	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物のカード            ここでは、象と猿のカードを使います。問題として使うカード〔ここでは象〕以外に、<b>tail</b> や <b>ear</b> などの説明用として別のカード〔ここでは猿〕を用意しました。            色もどんな動物かを推測する手がかりになりますので、白黒の絵を使うと活動が難しくなります。また、動物の描き方によっても、難易度が変わります。</li> </ul> <p>※付録 CD には、白黒版の動物カードがあります。部分から全体へと段階的に提示できるようにしてありますので、ご活用ください。</p>	 
<b>活動内容/活動の流れ</b>		
<p>動物の絵を少しずつ、段階的に見せて、児童の興味・関心を高めながら、同じ英語を何度も聞かせる活動です。</p> <p>※ここでは、担任 (ALT) がカードを手を持ち、それを二つ折りで見せたり、四つ折りで見せたりしながら活動を進めていく手順を示しました。他にも、カードを別の紙で隠し、少しずつ見せていくことや、PC とプロジェクタを利用し、提示してもよいでしょう。</p> <p><b>動物カードを二つ折りにし、半分の面を順番に 2 回程度 (必要に応じて変える) 見せて、何の動物かを尋ねる。</b></p> <p>※カードを見せるときには、判断しにくい面から見せていきましょう。また、見せる角度も工夫しましょう。</p> <p><b>ヒントを示しながら、 を再度行う。</b></p> <p><b>カード全体を示し、答えは何なのか、確認する。</b></p> <p>※四つ折りにした動物カードを用意し、①～③を繰り返す。</p>		

こんな英単語も取りあげることができます



cow  
(牛)



gorilla  
(ゴリラ)



fish  
(魚)



moose  
(ヘラジカ)



lion  
(ライオン)



rhino  
(サイ)



walrus  
(セイウチ)



hippo  
(カバ)



tortoise  
(カメ)

こんなヒントを示すことができます



[猿の絵も一緒に使って目や鼻を指しながら]

This is an eye. (目です。)      This is a nose. (鼻です。)

[牛乳の絵を示して] It gives us milk. (牛乳を私たちはもらいます。)

It says, "Moo moo." ("モーモー"と鳴きます。)



[肉の丸焼きの絵を示して] It likes meat. (肉が好きです。)

It says, "Roar roar." ("ガオーガオー"と、ほえます。)

[王冠の絵を示して] It is the king of the jungle. (密林の王です。)

ひとくちメモ

動物の鳴き声自体は日本でも海外でもそれほど変わらないはずなのですが、言葉で表すと、同じ音とは限りません。文化の違いの一つです。

「こんなヒントを示すことができます」の欄でも示したとおり、牛の鳴き声は英語では“moo moo”と表します。童謡にもいくつか出てきます。いろいろな言い方やつづり方がありますが、代表的な例を示します。













犬……bowwow      猫……meow meow      豚……oink oink      馬……neigh neigh

ヒヨコ……chick chick      鶏……cock-a-doodle-doo      羊……baa baa

ガチョウ……honk honk      アヒル……quack quack      ロバ……hee-haw

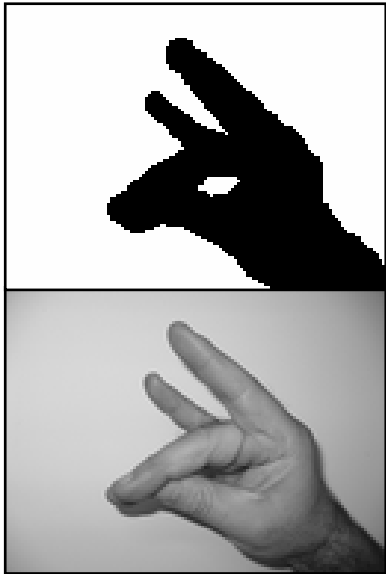
ちなみに、人間の場合、いびきは zzz、くしゃみは achoo、あくびは yawn です。

## 5 トピック 生き物(1)

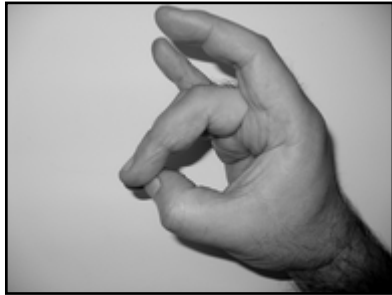
活動の流れ	担任 (ALT) の動き スクリプトとして活用してください。
<p>①動物カードを二つ折りにし、半分の面を順番に2回程度(必要に応じて変える)見せて、何の動物かを尋ねる。</p> <p><u>TTの場合</u> 質問する役割と答える役割を分担するとよいでしょう。</p>	<p><b>【1】</b> Now, we'll play a game. (さあ、これからゲームをします。)</p> <p>What's this? An apple? Yes? No? No. It is not an apple. (これは何かな。リンゴかな。違うね。リンゴではありません。)</p> <p>Is this ナス—an eggplant? No. It is not ナス—an eggplant. (ナスかな。違います。ナスではありません。)</p> <p>What is it? (何かな。)</p> <p>◎児童が答えたら、まずそのまま繰り返す。日本語の場合は “かぼちゃ—a pumpkin?”などと英語表現を付け加えることも可能である。答えに対しNo.などと応じてよいが、正解の場合は①では応じられない。</p> <p><b>【2】</b>カードの別の面を見せて尋ねる。</p> <p>What's this? Is this a monkey? No. It is not a monkey. (これは何かな。[猿の絵を示す。]猿かな。違います。猿ではありません。)</p> <p>What is it? (何かな。)</p> <p>◎児童の答えに対応する。</p> <div style="text-align: right;">          </div>
<p>②ヒントを示しながら、①を再度行う。</p> <p><u>TTの場合</u> ヒントを示す役割と、それをそのまま繰り返す役割とを分担するとよいでしょう。</p>	<p><b>【3】</b> Now, I'll give you some hints. (ヒントです。)</p> <p>◎象カードの尾を指して This is a tail. (尾です。)</p> <p>◎猿カードの尾を指して This is a tail. (尾です。)</p> <p>◎もう一度、象カードの尾を指して This is a tail. (尾です。)</p> <p>What's this? (これは何かな。)</p> <p>◎児童の答えに対応する。</p> <p><b>【4】</b>カードの別の面を見せて</p> <p>◎象カードの耳を指して This is an ear. (耳です。)</p> <p>◎猿カードの耳を指して This is an ear. (耳です。)</p> <p>◎もう一度、象カードの耳を指して This is an ear. (耳です。)</p> <p>What's this? (これは何かな。)</p> <p>◎児童の答えに対応する。</p> <div style="text-align: right;">          </div>
<p>③カード全体を示し、答えは何なのか、確認する。</p>	<p><b>【5】</b> What's this? (これは何かな。)</p> <p>You got it! It's an elephant! (正解です。象です。)</p> <p>※「象!」という答えに対しては、“Yes. It's 象—an elephant.”などのように、児童の答えを一度繰り返してから英語表現を付け加えるとよいでしょう。</p> <div style="text-align: right;">    </div>

児童の活動	授業の進め方
<p>二つ折りのカードを見ながら、担任（ALT）の話を聞く。</p> <p>答えを考え、英語（または日本語）で言う。 例 「かぼちゃ?」「ピーマン!」"Banana?"</p> <p>二つ折りのカードを見ながら、担任（ALT）の話を聞く。</p> <p>答えを考え、英語（または日本語）で言う。 例 「ライオン?」「象だ!」"Tiger?"</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>📌の箇所でCDをとめて、英語（または日本語）で進めてください。</p> </div> <p>📌 児童の反応を見ながら、 What's this?（これは何かな。） (Is this a) ~?（～ですか。） Yes? No? を数回繰り返します。</p> <p>📌 児童の反応を見ながら、 What's this?（これは何かな。） (Is this a) ~?（～ですか。） Yes? No? を数回繰り返します。</p>
<p>二つ折りのカードと猿のカードを見て、担任(ALT)の話を聞く。</p> <p>答えを考え、英語（または日本語）で言う。 例 「カバかな?」「象だよ。」 「象って英語で?」</p> <p>二つ折りのカードと猿のカードを見て、担任(ALT)の話を聞く。</p> <p>答えを考え、英語（または日本語）で言う。 例 「やっぱり象だよ。」"Elephant!"</p>	<p>※児童の反応を見ながら、タイミングよくヒントを聞かせましょう。</p> <p>📌 児童の反応を見ながら、 What's this?（これは何かな。） (Is this a) ~?（～ですか。） Yes? No? を数回繰り返します。</p> <p>📌 児童の反応を見ながら、 What's this?（これは何かな。） (Is this a) ~?（～ですか。） Yes? No? を数回繰り返します。</p>
<p>二つ折りを開いたカードを見て答えを考え、英語で言う。</p> <p>例 "Elephant!"</p>	<p>📌 象であることを確認して、クラス全体で担任（ALT）と一緒に"Elephant!"と言いましょう。</p>

## 6 トピック 生き物(2)

活動名	手影絵で遊ぼう!
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手影絵を見てヒントを聞き、どんな動物か推測しようとする。</li> <li>・動物を表す単語に慣れ親しむ。</li> <li>・日本の文化に興味・関心をもつ。</li> </ul>
取りあげる英単語	<生き物> fox (キツネ) rabbit (ウサギ) [rabbitに関連して] carrot (ニンジン) ear (耳)
取りあげる英語表現	What's this? (これは何ですか) Is this a fox? (これはキツネですか。) Let's try <i>te-gagee</i> . (手影絵をしましょう。)
準備するもの 付	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクタ (OHPでも可)、スクリーン (模造紙でも可)</li> <li>・手影絵の例を示した資料</li> <li>・ニンジンや耳の絵</li> </ul>
<b>活動内容/活動の流れ</b>	
<p>手影絵を見せたり、実際に児童に手影絵をさせたりしながら、その手影絵が示すものを表す英語表現に慣れ親しませるとともに、日本の伝統文化に興味・関心をもたせる活動です。</p> <p>※ここでは、担任が一人で手影絵を見せながら活動を進めていく手順を示しました。ALTとのチーム・ティーチングのように指導者が二人いる場合には、一人は手影絵に専念し、もう一人が絵やジェスチャーなどを示しながら英語を聞かせることができます。</p> <p><b>いろいろな手影絵を投影し、それが何であるか児童に尋ねる。</b></p> <p>※角度を変えるなどして、簡単には分からないように投影し、ヒントを与えながら進めましょう。</p> <p>※担任 (ALT) の手元が児童に見えないように投影方法を工夫しましょう。</p> <p><b>手影絵の作り方を示して実際に児童に作らせ、スクリーンに投影させる。</b></p> <p>※説明のためにハンドアウト (補足説明資料) を用意して、児童に配付しましょう。</p> <p>※発展的な活動として、児童に自由に手影絵を作らせてスクリーンに投影させ、その手影絵が何を表しているのか尋ねることも考えられます。</p>	
	

こんな手影絵も取りあげることができます



squirrel  
(リス)



dog  
(犬)



snail  
(カタツムリ)



cat  
(猫)



monster  
(怪獣)



tea pot  
(土瓶)

こんなヒントを示すことができます

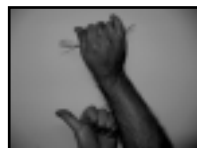


[雨の絵を示しながら]

**It likes rain very much.** (雨が大好きです。)

[家の絵を示しながら]

**It has a very small house.** (小さな家を持っています。)



[犬の絵を示して、手で×を作りながら]

**It doesn't like dogs.** (犬は好きではありません。)

**It says, "Meow meow."** (「ニャーニャー」鳴きます。)

ひとくちメモ

手影絵が本物にあまり似ていないとしても、それがかえって児童の想像力をふくらませるよい機会になりますので、児童と言葉のやりとりをしながら、活動を進めましょう。

## 6 トピック 生き物(2)

活動の流れ	学級担任(ALT)の動き スクリプトとして活用してください。
<p>①いろいろな手影絵を投影し、それが何であるか児童に尋ねる。</p> <p><u>TTの場合</u> 手影絵を示す役割と、絵やジェスチャーを交えながら英語を聞かせる役割を分担するとよいでしょう。</p>	<p><b>【1】</b> Now, look at the screen. (さあ、スクリーンを見てみましょう。) What's this? A dog? Yes? No? No. It is not a dog. (これは何かな。犬かな。ちがうね。犬ではありません。) Is this たぬき—a raccoon dog? (たぬきかな。) No. It is not たぬき—a raccoon dog. (ちがいます。たぬきではありません。) What is it? (何かな。)</p> <p>◎児童が答えたら、まずそのまま繰り返す。日本語の場合は"猫—a cat?"などと英語表現を付け加えることも可能である。答えに対し Yes./No. と応じる。</p> <p><b>【2】</b> Yes. It's キツネ—a fox. Fox! (そうだね。キツネです。)</p> <p><b>【3】</b> What's this? A fox? Yes? No? No. It is not a fox. (これは何かな。キツネかな。ちがうね。キツネではありません。) ニンジンの絵を示しながら It likes carrots. (ニンジンが好きです) 耳の絵を示しながら It has long ears. (耳は長い。)</p> <p>What is it? (何かな。)</p> <p>◎児童が答えたら、まずそのまま繰り返す。日本語の場合は、"猫—a cat?"などと英語表現を付け加えることも可能である。答えに対し Yes./No. と応じる。</p> <p><b>【4】</b> Yes. It's a rabbit. Rabbit! (そうだね。ウサギです。)</p> <p>※この後、他の手影絵を出題してもよいでしょう。</p>
<p>②手影絵の作り方を児童に教えて実際に作らせ、スクリーンに投影させる。</p>	<p><b>【5】</b> Let's try te-kagee. Watch me. (手影絵をやってみようか。担任(ALT)を見てね。) Copy me. Let's try. (まねしてみよう。)</p> <p>※補足説明資料を用意して、児童に配布するとよいでしょう。</p> <p>◎上手にできた児童を Oh, your rabbit is very nice. Show it on the screen, please. (ウサギがうまくできたね。スクリーンに映してください。) などと言って紹介する。</p>



児童の活動	授業の進め方
<p>スクリーンに映った影を見ながら、担任（ALT）の話聞く。</p> <p>例 “Yes!” “No!”</p> <p>例 “Yes!” “No!”</p> <p>答えを考え、英語（または日本語）で言う。</p> <p>例 “Cat?” 「牛？」「キツネ！」</p> <p>例 “Fox!”</p> <p>スクリーンに映った影を見ながら、担任（ALT）の話聞く。</p> <p>例 “Yes!” “No!”</p> <p>答えを考え、英語（または日本語）で言う。</p> <p>例 「ウサギ？」「牛？」“Fox!”</p> <p>例 “Rabbit!”</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>🔊の箇所ではCDをとめて、英語（または日本語）を進めてください。</p> </div> <p>🔊 児童の反応を見ながら、  <b>What's this?</b>（これは何かな。）  <b>(Is this a) ~?</b>（～ですか。）  <b>Yes? No?</b> を数回繰り返します。</p> <p>🔊 キツネであることを確認します。</p> <p>※児童の反応を見ながら、タイミングよくヒントを聞かせましょう。</p> <p>🔊 児童の反応を見ながら、  <b>What's this?</b>（これは何かな。）  <b>(Is this a) ~?</b>（～ですか。）  <b>Yes? No?</b> を数回繰り返します。</p> <p>🔊 ウサギであることを確認します。</p>
<p>担任（ALT）の見本やハンドアウトを参考に、手影絵を作る。</p>	<p>🔊 児童の活動状況を見ながら、声をかけます。</p> <p>例 <b>Good! Wonderful! Perfect!</b>（いいね）  <b>What's this?</b>（これは何かな。）  <b>(Is this a) ~?</b>（～ですか。）</p>



## 7 トピック 生き物(3)

活動名	いなくなった動物は？
活動のねらい	・動物を表す単語を聞き取ろうとしたり、言おうとしたりする。
取りあげる英単語	<p>&lt;生き物&gt;</p> <p>elephant (象) monkey (猿) fox (キツネ) rabbit (ウサギ)</p> <p>cow (牛) lion (ライオン) dog (犬) tiger (トラ)</p> <p>※活動5、6で触れた動物を主に示した。</p>
取りあげる英語表現	<p>What animal is this? (これは何という動物ですか。)</p> <p>What animal is missing? (いなくなったのは何という動物ですか。)</p>
準備するもの 付	<p>・「取りあげる英単語」で示した動物のカード</p>  <p>※これまでの活動で使用したカードを利用するのもよいでしょう。 ※単語のつづりを文字で示すことについては、次ページの「ひとくちメモ」をご覧ください。</p>
<b>活動内容/活動の流れ</b>	
<p>黒板に何枚かはった動物のカードから、1枚、2枚と外し、どの動物がいなくなったのかを当てる活動（いわゆる、ミッシングゲーム）です。 ※児童の状況により、取りあげる動物を増やしたり、減らしたりしてください。</p> <p><b>児童に動物のカードを少しずつ見せて、それぞれの動物が何であるかを尋ねる。</b> ※最初からカードの全面を見せてしまうと、それが何の動物なのかすぐにわかってしまいますが、少しずつ見せていくことで、子どもたちの興味・関心や意欲をかき立てることができます。そして、“What (animal) is this?”という英語は、子どもたちが「考える」ことのきっかけになります。</p> <p><b>児童に目を閉じるように指示し、カードを1枚外す。</b> ※黒板に残したカードの場所を変えると、活動の難度が高くなります。</p> <p><b>児童に、いなくなった動物は何か尋ねる。</b></p> <p>※発展的な活動として、新たな動物を付け加え、“What animal is new?”（増えたのは何という動物ですか。）と尋ねることも考えられます。</p>	

こんな英単語も取りあげることができます



**dolphin**  
(イルカ)



**walrus**  
(セイウチ)



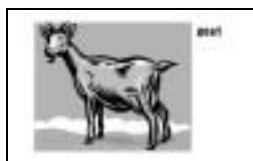
**penguin**  
(ペンギン)



**hippo**  
(カバ)



**panda**  
(パンダ)



**goat**  
(ヤギ)



**horse**  
(馬)



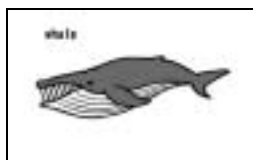
**zebra**  
(シマウマ)



**hen**  
(鶏)



**pig**  
(豚)



**whale**  
(クジラ)



**Polar bear**  
(北極グマ)



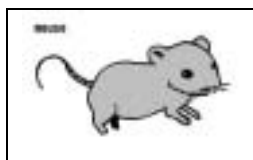
**swan**  
(白鳥)



**bear**  
(クマ)



**ostrich**  
(ダチョウ)



**mouse**  
(ネズミ)



**koala**  
(コアラ)



**cat**  
(猫)

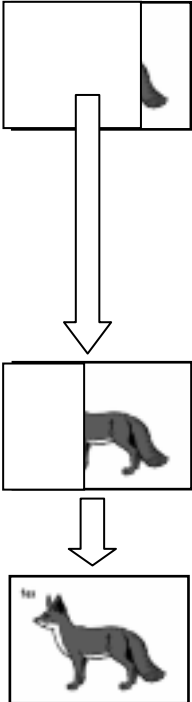
※すべて付録のCDに収録されています。

### ひとくちメモ

小学校の英語活動では「聞くこと」「話すこと」に重点が置かれていますので、文字を見て英語を読むことは目標ではありません。

しかし、この活動で取り上げたカードには、単語のつづりをアルファベットで示してあります。これは、高学年の児童はローマ字の学習をすでに終えており、単語の発音を思い出す手がかりの一つと考えて絵に添えたものです。文字を読ませる活動をねらったものではありません。

## 7 トピック 生き物(3)

活動の流れ	担任 (ALT) の動き スクリプトとして活用してください。
<p>①児童に動物のカードを少しずつ見せて、それぞれの動物が何であるかを尋ねる。</p> <p><u>TTの場合</u> カードを操作する役割と英語を話す役割や、英語で質問する役割と答える役割などと、役割を分担するとよいでしょう。</p>	<p><b>【1】</b> Now, we'll play a game. (さあ、これからゲームをします。)</p> <p>What animal is this? An elephant? Yes? No?</p> <p>No. It is not an elephant.</p> <p>(これは何かな。象かな。違うね。象ではありません。)</p> <p>What animal is it? (何の動物かな。)</p> <p>◎児童が答えたら、まずそのまま繰り返す。日本語の場合は“犬——a dog?”などと英語表現を付け加えることも可能である。その後、答えに対し No.などと応じ、正解の場合はすぐにカードの全面を見せてもよい。</p> <p><b>【2】</b> カードをもう少し見せて</p> <p>What animal is this? Is this a monkey? No.</p> <p>(これは何の動物かな。猿かな。違います。)</p> <p>What animal is it? (何の動物かな。)</p> <p>◎児童の答えに対応する。</p> <p><b>【3】</b> カードの全面を見せて</p> <p>What animal is this? (これは何の動物かな。)</p> <p>◎児童の答えに対応する。正解が出たら、“Yes. This is a fox. Fox!”などと正解を示して、カードを黒板に掲示する。</p> <p>◎この活動で取り扱う他の動物 (elephant (象) monkey (猿) rabbit (ウサギ) cow (牛) lion (ライオン) dog (犬) tiger (トラ)) についても を行う。</p> <div style="text-align: right;">  </div>
<p>②児童に目を閉じるように指示し、カードを1枚外す。</p>	<p><b>【4】</b> Close your eyes. (目を閉じてください。)</p> <p>◎カードを1枚外す (トラのカードとする)。カードは教卓等に隠す。 ※黒板に残したカードの場所を変えると、活動の難度が高くなります。</p> <p><b>【5】</b> Open your eyes. Wow, one animal is missing!</p> <p>(目を開けてください。おや、動物が一匹、なくなっています。)</p>
<p>③児童に、いなくなった動物は何か尋ねる。</p>	<p><b>【6】</b> What animal is missing? (いなくなったのは何という動物ですか。)</p> <p>◎児童の答えに対応する。隠したカードを取り出し、裏向きに児童に示す。</p> <p><b>【7】</b> What animal is this? (これは何の動物かな。)</p> <p>◎児童の答えに対応する。正解が出たらカードの表を見せ、“Yes. This is a tiger. Tiger!”などと正解を示す。</p> <p>※別な動物について、②③を繰り返してもよいでしょう。</p>

児童の活動	CD を使用した場合の授業の進め方
<p>一部が隠されたカードを見ながら、担任 (ALT) の話を聞く。 例 “Yes!” “No!”</p> <p>答えを考え、英語 (または日本語) で言う。 例 「犬?」「パンダ!」「Tiger?”</p> <p>一部が隠されたカードを見ながら、担任 (ALT) の話を聞く。</p> <p>答えを考え、英語 (または日本語) で言う。 例 「キツネ!」「Fox!”</p> <p>例 “Fox!”</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>🔔の箇所では CD をとめて、英語 (または日本語) で進めてください。</p> </div> <p>🔔 児童の反応を見ながら、 What animal is this? (これは何の動物かな。) (Is this) ~? (~ですか。) Yes? No? を数回繰り返します。</p> <p>🔔 児童の反応を見ながら、 What animal is this? (これは何の動物かな。) (Is this) ~? (~ですか。) Yes? No? を数回繰り返します。</p> <p>🔔 絵を確認し、クラス全体で担任 (ALT) と一緒に“Fox!”と言いましょ。</p>
<p>目を閉じる。</p> <p>目を開け、黒板のカードを見る。</p>	<p>🔔 児童が目を閉じたことを確認します。</p> <p>🔔 動物が一匹いなくなっていることを伝えま</p>
<p>なくなったカードについて考え、英語 (または日本語) で言う。 例 「トラかな。」 “Panda!”</p> <p>例 “Tiger!”</p>	<p>🔔 児童の反応を見ながら、 What animal is this? (これは何の動物かな。) (Is this) ~? (~ですか。) Yes? No? を数回繰り返します。</p> <p>🔔 絵を確認し、クラス全体で担任 (ALT) と一緒に“Tiger!”と言いましょ。</p>

## 8 トピック 生き物(4)

活動名	どんな動物がいるかな？
活動のねらい	・動物を表す単語を聞き取ろうとしたり、言おうとしたりする。
取りあげる英単語	<p>&lt;生き物&gt;</p> <p>elephant (象) monkey (猿) fox (キツネ) rabbit (ウサギ)</p> <p>cow (牛) lion (ライオン) dog (犬) tiger (トラ)</p> <p>※活動7と同様に、活動5と6で取りあげた動物を主に示した。</p> <p>&lt;場所、地名&gt;</p> <p>Africa (アフリカ) ZOORASIA (ズーラシア (よこはま動物園))</p>
取りあげる英語表現	<p>What animals are there on the cards? (カードにはどんな動物がいますか。)</p> <p>What animals live in Africa? (アフリカにはどの動物がいますか。)</p>
準備するもの 付	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「取りあげる英単語」で示した動物や場所、地名のカード</li> <li>・その動物の絵を1枚にまとめたワークシート (次ページ参照)</li> </ul> <p>※4人1グループで活動しますので、ワークシートをグループの数だけ用意します。</p>
<b>活動内容/活動の流れ</b>	
<p>いろいろな種類の動物が描かれたカードを見せたり裏返しにしたりして、各動物の名前について尋ねながら、動物を表す英語表現に慣れ親しませる活動です。</p> <p>いろいろな種類の動物が描かれたカードを見せ、カードを裏返しにして、どんな動物がいたか尋ねる。</p> <p>カードを見せながら、各動物を表す英語を尋ねる。 ※それぞれの動物について好きかどうかを尋ねるのもよいでしょう。</p> <p>動物を表す英語を話し、ワークシート上の動物の絵に触れさせる。 ※グループで行います。児童は活動に熱中しがちなので、安全面に十分配慮しましょう。</p> <p>カードを裏返しにして、描かれている動物について尋ね、質問ごとに児童にカードを見せて確認する。 ※例えば、 ・アフリカにいる動物はどれですか。 ・ズーラシア (よこはま動物園) にいる動物は何ですか。</p> <p>※確認が終わったら、またカードを裏返しにして別のことを尋ねます。(次ページ参照)</p>	

## ここで使えるワークシートの例



活動③は、4人グループになり、動物を表す英語を聞いてワークシート上の絵に触れる活動です。そのときに使用するワークシートですが、動物の絵が一つずつ描いてあるシートを使うと、一人しか触ることができません。また、児童が熱中しすぎてしまい、手と手がぶつかってけがをすることも考えられます。

安全面に配慮するためには、たとえば、上記のシートのような、各動物の絵が人数分描かれているシートを用意すれば、全員が絵に触れることができます。PCを使ったり、一つの絵をコピー機で拡大・縮小してのりとはさみを使えば、それほど時間もかからずに作ることができます。

## こんな質問を ではすることができます

What animals live in the sea? (海にいるのは?)

What animals live in trees? (木にいるのは?)

What animals live in jungles? (ジャングルにいるのは?)

What animals eat meat? (肉を食べるのは?)

What animal has two long tusks?

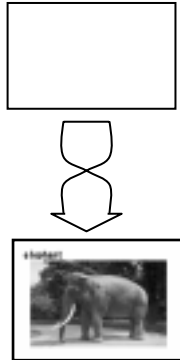
([ジェスチャーをつけて] 長い牙(きば)が2本あるのは?)

What animals have a long nose?

([ジェスチャーをつけて] 鼻が長いのは?)

ユーモラスなジェスチャーを示したり、キーワードに関する絵、写真、カードなどを見せたりしながら行いましょう。

## 8 トピック 生き物（４）

活動の流れ	担任（ALT）の動き スクリプトとして活用してください。
<p>①いろいろな種類の動物が描かれたカードを見せ、カードを裏返しにして、どんな動物がいたか尋ねる。</p> <p><u>TTの場合</u> 質問役とカード担当役を分担するとよいでしょう。</p>	<p><b>【１】</b> Look at the cards, please. (カードを見てください。) カードを一度児童にゆっくり見せ、裏返しにして黒板にはる。</p> <p>What animals are there on the cards? A cat? No. (カードにはどんな動物がいますか。猫かな。違う。)</p> <p>What animals are there on the cards? (カードにはどんな動物がいますか。)</p> <p>◎児童が答えたら、まずそのまま繰り返す。日本語の場合は“象——an elephant?”などと英語表現を付け加えてもよい。その後、Yes./No.で答え、Yes.の場合は、そのカードを表にする。</p> 
<p>②カードを見せながら、動物を表す英語を尋ねる。</p>	<p><b>【２】</b>象カードを示して What animal is this? (これは何の動物ですか。) Yes. Elephant. Elephant! (そうだね。象です。)</p> <p>◎monkey (猿)、fox (キツネ)、rabbit (ウサギ)、cow (牛)、lion (ライオン)、dog (犬)、tiger (トラ) のカードについても同様に行う。</p>
<p>③動物を表す英語を話し、その動物の絵に触れさせる。</p> <p>安全面に十分配慮しましょう。</p>	<p><b>【３】</b> Let's play a game! Make a group of four. Put your desks together. (ゲームをしましょう。4人組になり、机を寄せてください。)</p>  <p>◎ワークシートを配って Everyone, listen to me. I'll say an animal, and you'll touch the picture. OK? Put your hands on the desk. (みんな、聞いてね。私が動物を言うので、その絵に触ってください。いいですか。手は机の上に置いてください。)</p> <p>◎Elephant!と大きな声で言い、児童が全員絵に触れたのを見計らって Elephant!と声をかける。</p>
<p>④カードを裏返しにして、描かれている動物について尋ね、質問ごとに児童にカードを見せて確認する。</p>	<p><b>【４】</b> Turn your worksheet over. (資料を裏返してね。) カードを裏返し I'll ask you some questions. (質問します。)</p> <p>◎アフリカのカードを示しながら What animals live in Africa? (アフリカにはどの動物がいますか。)</p> <p>◎児童が答えたら、まずそのまま繰り返す。日本語の場合は“象——an elephant?”などと英語表現を付け加えてもよい。一通り回答が出たら、カードを表にして答えを確認する。</p> <p>※ズーラシアのカードを示しながら、What animals live in Zoorasia? (ズーラシアにはどんな動物がいますか。)などの質問をしてもよいでしょう。そのときには、ジェスチャーを示したり、絵、写真等を提示したりしましょう。</p>

児童の活動	CD を使用した場合の授業の進め方
<p>裏返しのカードを見ながら答えを考え、英語（または日本語）で言う。</p> <p>例 「象?」「猫!」 “Fox?”</p> <p>例 “Elephant!”</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>🔔の箇所では CD をとめて、英語（または日本語）を進めてください。</p> </div> <p>🔔 児童の反応を見ながら、～?（～かな。） Yes? No? を数回繰り返します。</p> <p>※正しく答えたら、<b>Good! Excellent! Good job!</b>（えらいね。よくできました。）などと児童を褒めましょう。</p>
<p>担任（ALT）のまねをして、カードの動物を英語で言う。</p> <p>例 “Elephant!”</p>	<p>🔔 クラス全体で担任（ALT）と一緒に“Elephant!”と言いましょ。</p>
<p>4人組のグループになり、机を寄せる。</p> <p>ワークシートを受け取り、担任（ALT）の話す英語を聞いて、その動物の絵に触れる。</p> <p>担任（ALT）のまねをして、カードの動物を英語で言う。</p> <p>例 “Elephant!”</p>	<p>🔔 きちんとできたら、<b>Good! Excellent! Good job!</b>（えらいね。よくできました。）などと児童を褒めましょう。</p> <p>※クラス全体で担任（ALT）と一緒に“Elephant!”と言いましょ。</p>
<p>ワークシートを裏返す。</p> <p>担任（ALT）の話をして、答えを考え、英語（または日本語）で言う。</p> <p>担任（ALT）のまねをして、英語で言う。</p> <p>例 “Elephant!”</p>	<p>🔔 きちんとできたら、<b>Good! Excellent! Good job!</b>（えらいね。よくできました。）などと児童を褒めましょう。</p> <p>※クラス全体で担任（ALT）と一緒に“Elephant!”と言いましょ。</p>



## 9 トピック 先生・友だち

活動名	友だちや先生の好きなものは？
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ “Do you like ~?” という英語表現に慣れ親しむ。</li> <li>・ 友だちや先生の好きなことを知り、友だちや先生のことに関心をもつ。</li> </ul>
取りあげる英単語	すでに知っているものは英語で表現してもよいが、日本語で表現してもかまわない。
取りあげる英語表現	Do you like ~? (~が好きですか。)
準備するもの	・ 黒板 (グループごとの得点表を書いておく)
<b>活動内容/活動の流れ</b>	
<p>それぞれの好きなものや好きなことをジェスチャーで示して、“Do you like ~?” という質問に答えます。二つのチームに分かれて、ジェスチャーの示し方について相談しながら進めることもできます。友だちの好きなものや好きなことを想像しながら英語で質問し、“Yes.” “No.” の受け答えに慣れていきます。</p> <p>この活動をとおして、“Do you like ~?” という英語表現に自然に慣れていきます。</p> <p>児童に、1 ~ 5 の数を英語で数えさせ、5 ~ 6 人ずつのグループを作る。</p> <p>それぞれのグループの呼び名 (Group A, B, C など) を決めておく。</p> <p>ルールを示す (児童それぞれの好きなものや好きなことを考えさせ、ジェスチャーで表せるようにデモンストレーションで示す)。</p> <p>各チーム順番に 1 人ずつ、好きなものや好きなことをジェスチャーで示す。</p> <p>上の で示されたジェスチャーが何であるか考えついた児童は手をあげ、指名されたら “Do you like ~?” と質問する。</p> <p>“~” の部分は日本語でもよいでしょう。</p> <p>ジェスチャーをした児童は、質問について “Yes.” または “No.” で答える。</p> <p>“Yes.” の応答が得られたら、質問した子のグループの得点となる。</p> <p>※好きなもの・ことについては、「スポーツ」、「動物」、「食べ物」などカテゴリーを限定すると活動がしやすいでしょう。</p> <p>※クラスを 2 チームに分け、チーム対抗にすることも考えられます。</p> <p>※ルールの説明は、デモンストレーションを示すとわかりやすいでしょう。</p>	

こんな英単語も取りあげることができます

tennis (テニス)    baseball (野球)    dodge ball (ドッジボール)  
basketball (バスケットボール)    volleyball (バレーボール)  
soccer (サッカー)    swimming (水泳)    running (走ること)  
table tennis (卓球)    cycling (自転車に乗ること)  
judo (柔道)    karate (空手)

こんな英語表現も取りあげることができます

[好きな動物のジェスチャーをして]

Do you like cats? (dogs, tigers, lions, rabbits, horses...)

[好きな食べ物を食べるジェスチャーをして]

Do you like soba? (sushi, hamburgers...)

ひとくちメモ

子どもたちを英語に慣れ親しませるために

TPR(ティーピーアール)

「先生の英語を聞いて、動作で反応する」という活動は、子どもたちの心理的な負担を軽減します。英語がわからなくても、周りの友だちの動作をまねることで反応が可能になるからです。このような指導法の代表的なものが **TPR (Total Physical Response[トータル・フィジカル・リスポンス]: 全身反応学習)** です。子どもたちが、先生の英語(命令文「～しなさい。」)を聞き、それに合わせて身体動作をする活動です。

まず、先生が **Stand up. Sit down. Bow. Walk. Stop.**などの英語を発し、子どもたちと一緒にその動作をします。子どもたちは先生の英語を聞きながら、先生の動作をまねることになります。子どもたちが慣れてきたら、例えば、次のように変化をつけて行います。

- 先生は動作をせずに英語だけを発し、子どもたちにその動作をさせる。
- 先生は英語を発しながら、その英語と違う動作をし、子どもたちには先生が発した英語のとおり動作をさせる。
- 何人かを前に出させて、その子どもたちにだけ、先生の英語に合わせて動作をさせる。この場合、その他の子どもたちは審判役になる。

このような活動を通じて、子どもたちは英語を聞くことに慣れ、その中で使われる単語や表現にも自然に慣れ親しんでいきます。

## 9 トピック 先生・友だち

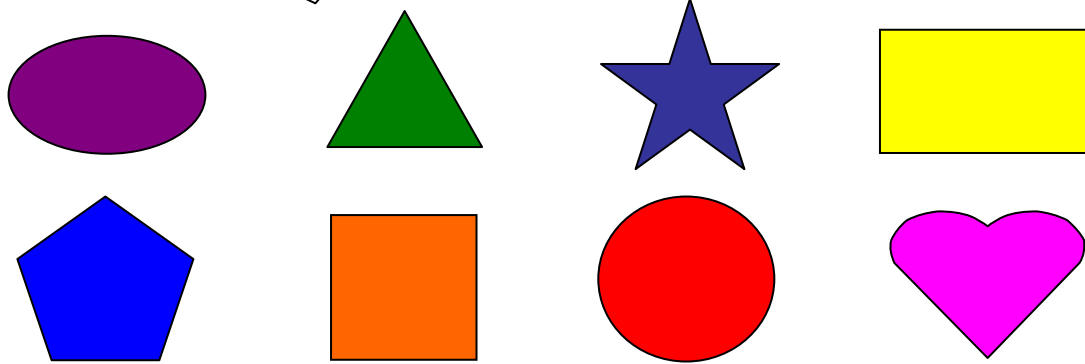
活動の流れ	担任 (ALT) の動き スクリプトとして活用してください。
①児童に、1～5の数を英語で教えさせ、5～6人ずつのグループを作る。	<b>【 1 】</b> Now, we'll play a gesture game. (さあ、これからジェスチャーゲームをします。) First, let's make a group of five. (5人のグループを作りましょう。) Let's count one to five! (5まで数えましょう。) 
②それぞれのグループの呼び名 (Group A, B, C など) を決めておく。	<b>【 2 】</b> "This group is A." "This group is B."... (このグループが A グループ、このグループが B グループ、...) 
③ルールを示す。	<b>【 3 】</b> We'll do it first. Look at us. (やってみますから見てください。) 
<b>TTの場合</b> ALTとデモンストレーションを見せる。	◎1人がジェスチャーを示し、もう1人が“Do you like ~?”で質問する。 ジェスチャーで示した側が、“Yes.”または“No.”で答える。 “Yes.”という応答が得られたら、質問した側が、“Wow, I got one point.”と言って黒板に得点を記入する。
<b>担任1人の場合</b> 児童の代表とデモンストレーションを行う。	◎児童の1人に、好きなスポーツのジェスチャーをするように伝える。 担任はジェスチャーを見て、“Do you like ~?”で質問してから、“Yes?” “No?”と尋ねる。 “Yes.”の応答が得られたら、“Wow, I got one point.”と書いて黒板に得点を記入する。
④各チーム順番に1人ずつ、好きなものや好きなことをジェスチャーで示す。	※子どもがうなずくなど、動作で答えた場合は、“Thank you. You like ~.”と返すとよいでしょう Now, let's start. (さあ始めましょう。) What sport do you like? (みなさんはなんのスポーツが好きですか。) Please show us by gesture. (ジェスチャーで示して下さい。) We'll start in 5 minutes. (5分後に始めましょう。) (5 minutes later) OK. Let's start. (では、始めましょう。) Group A. Who will go first? (Aグループさん。だれが最初ですか。) 
⑤上の④で示されたジェスチャーが何であるか考えついた児童は手をあげ、指名されたら“Do you like ~?”と質問する。	<b>【 4 】</b> Can anyone guess? Please raise your hand. (だれかわかった人、手をあげて。) Please ask a question. (質問してください。) 
⑥ジェスチャーをした児童は、質問に“Yes.”または“No.”で答える。	Anyone else? (ほかにだれかいますか。) Please. (どうぞ。)
⑦“Yes.”の応答が得られたら、質問した児童のグループの得点となる。	Good! OK. Your group got 1 point. Congratulations! (いいですね！あなた達のグループが1点とりました。おめでとう！)

児童の活動	授業の進め方
担任（ALT）と一緒に1～5の数を英語で数えながら、5～6人ずつのグループを作る。	<p>🔊 One, two, three, four, five, と全員で数えながら5人ずつのグループをつくれます。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>🔊の箇所でCDをとめて、英語（または日本語）で進めてください。</p> </div>
それぞれ決められたグループの呼び名（Group A, B, C など）を覚えておく。	<p>🔊 グループに名前をつけていきます。 This group is A. This group is B.....</p>
デモンストレーションにより、活動の進め方を理解する。	<p>🔊 TT の場合、担任1人の場合によりデモンストレーションします。</p>
<p><u>TTの場合</u> 担任とALTの動きを見て、活動の進め方を理解する。</p>	
<p><u>担任1人の場合</u> 担任と代表の児童の動きを見て、活動の進め方を理解する。</p> <p>A グループの代表がジェスチャーで示す。他のグループの児童は、ジェスチャーで示されたことを想像する。</p>	<p>🔊 ジェスチャーをした児童に向かって ○○san, thank you. (○○さん、ありがとう。)</p>
<p>ジェスチャーで示されたことを英語または日本語で表現し、Do you like ~? と尋ねる。 例 Do you like <u>tennis</u>? Do you like <u>卓球</u>?</p>	<p>🔊 質問をする児童を指名して ○○san, ask a question. (○○さん、質問してください。)</p>
<p>ジェスチャーをした児童は、“Yes.”または“No.”で答える。</p>	<p>Anyone else? (ほかにだれか?) ○○san, please. (○○さん、どうぞ。) Good! OK.</p>
	<p>Good! OK. (いいですね!) Your group got 1 point. Congratulations! (あなた達のグループが1点取りました。おめでとう!)</p>

## 10 トピック 色・形（1）

活動名	星形のカードは何色？ 赤色のカードはどんな形？
活動のねらい	・色や形を表す単語を聞き取ろうとしたり、言おうとしたりする。
取りあげる英単語	<色> red (赤) orange (オレンジ) yellow (黄色) green (緑) blue (青) indigo (あいいろ) violet (紫) pink (ピンク) <形> circle (円) square (正方形) rectangle (長方形) triangle (三角形) star (星形) heart (ハート形)
取りあげる英語表現	What color is this? (これは何色ですか。) What shape is this? (これは何の形ですか。)
準備するもの 付	・形の色カード ※パソコンに取り込んだ色カードをプロジェクタで投影してもよいでしょう。
活動内容/活動の流れ	
<p>8つの形の色カードを使って、色や形を表す英語表現に慣れ親しませる活動です。</p> <p>8つの形の色カードを見せて、その色を尋ねる。</p> <p>8つの形の色カードを黒板にはって、その形を尋ねる。</p> <p>黒板にはったカードを数える。</p> <p>順にカードを指し示す。</p> <p>赤色の円形を指し、それを指でなぞりながら、色と形の表現を示す。</p> <p>緑色の三角形を指し、それを指でなぞりながら、色と形の表現を示す。</p> <p>カードと色と形を尋ねる。</p>	

ここで使える絵カード



こんな英単語も取りあげることができます

black (黒) white (白)  
striped (しま柄の) checked (チェックの)  
hexagon (六角形) octagon (八角形)

こんな英語表現も取りあげることができます

黒板にはったカードを片付けて(子どもたちにカードを見せない状態にして) 各カードが何色でどんな形だったか尋ねます。

例

What color is the heart? [Pink!] Great!

カードを見せて The heart is pink.

What color is the star? [Blue!] Great!

カードを見せて The star is blue.

What shape is the orange card? [Triangle!]

No, it's not a triangle. [Square!]

Yes, that's right.

カードを見せて The orange card is a square.

※red circle, yellow rectangle, green triangle, purple oval についても同様に行います。

☆ It's not ~.は  
It is not ~.の短縮形です。

## 10 トピック 色・形(1)

活動の流れ	担任(ALT)の動き スクリプトとして活用してください。
① 8つの形の色カードを見せて、その色を尋ねる。	<p>【1】</p> <p>What color is this? Great! This is red.            What color is this? Yes! This is orange.            What color is this? Good! This is yellow.            What color is this? Right! This is green.            What color is this? Wow! This is blue.            What color is this? Wonderful! This is indigo.            What color is this? Good job! This is violet.            What color is this? Excellent! This is pink.</p> <p>(これは何色ですか。 そう、〇〇色です。)</p>
② 8つの形の色カードを黒板にはってその形を尋ねる。	<p>【2】</p> <p>How many shapes are there on the board? (黒板にいくつ形がありますか。)</p>
③ 黒板にはったカードを数える。	<p>【3】</p> <p>Let's count! (数えてみましょう。)</p> <p>One, two, three, four, five, six, seven, eight. Yes, eight! (そう、八つです。)</p>
④ 順にカードを指し示す。	<p>You can see 8 shapes on the board. (黒板に八つの形が見えますね。)</p> <p>What shapes are they?</p> <p>【4】</p> <p>Circle! Square! Rectangle! Triangle! Star! Pentagon! Oval! Heart!            Yes, eight shapes!</p> <p>(円、正方形、長方形、三角形、星形、五角形、だ円、ハート形。そうです、8種類の形があります。)</p>
⑤ 赤色の円形を指し、それを指でなぞりながら色と形の表現を示す。	<p>What shape is this? This is a circle. Circle! (これは円です。)</p> <p>This is a red circle. Red circle! (これは赤い円です。)</p>
⑥ 緑色の三角形を指し、それを指でなぞりながら色と形の表現を示す。	<p>【5】</p> <p>This is a triangle. Triangle!            This is a green triangle. Green triangle! (これは緑の三角形です。)</p> <p>※orange square, yellow rectangle, indigo star, blue pentagon, violet oval, pink heart についても同様に行います。</p>
⑦ カードと色と形を尋ねる。	<p>What color is the heart? (ハート形は何色ですか。)</p> <p>Great! The heart is pink. (そう、ハート形はピンクです。)</p> <p>What shape is the orange card? (オレンジ色はどんな形ですか。)</p> <p>Yes! The orange card is square. (そうです。オレンジ色のカードは正方形です。)</p>

児童の活動	授業の進め方
<p>示されたカードの色を英語（または日本語）で答える。</p> <p>例  “Red!” “Orange!” “Yellow!” “Green!”  “Blue!” “Indigo!” “Purple!” “Pink!”</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 🔊の箇所でCDをとめて、英語（または日本語）で進めてください。 </div> <p>🔊 担任が指したカードの色を子どもに言わせてもよいでしょう。（全体やグループで言わせたり、指名したりして言わせることも考えられます。）</p>
<p>黒板に示された形のカードを英語で数える。</p> <p>例 “Eight!”</p>	<p>🔊 黒板にいくつ形があるか尋ねます。</p>
<p>英語（または日本語）で数える。</p> <p>例 “One, two, three, ... eight!”  「一、二、三、 ... 八。」</p>	<p>🔊 CDをとめて、児童と一緒に数えてもよいでしょう。</p>
<p>示されたカードの形の英語を聞く。</p>	<p>🔊 CDをとめて、児童と一緒に言ってみてもよいでしょう。</p>
<p>示されたカードの形の英語を聞きながら、言ってみる。</p> <p>例  “Circle!” “Red circle!”</p>	<p>🔊 CDをとめて、児童と一緒に言ってみてもよいでしょう。</p>
<p>示されたカードの形の英語を聞きながら、言ってみる。</p> <p>例  “Triangle!” “Green triangle!”</p>	
<p>カードで示された色や形を英語（または日本語）で答える。</p> <p>例  “Pink!” “Square!”  「ピンク。」 「四角形。」</p>	<p>🔊 児童の応答を励ましたり、褒めたりします。  例 Great! Good job!</p>



## 11 トピック 色・形（2）

活動名	虹（にじ）ってどんな色かな？
活動のねらい	・色や数字を表す単語を聞き取ろうとしたり、言おうとしたりする。
取りあげる英単語	<数> 1～7の数を表す英単語 <色> red (赤) orange (オレンジ) yellow (黄色) green (緑) blue (青) indigo (あいいろ) violet (紫) pink (ピンク)
取りあげる英語表現	What color is this? (これは何色ですか。) Color number one red. (① (1番)の部分を赤色に塗りましょう。) What color is number one? (① (1番)の部分は何色ですか。) What number is red? (赤色は何番ですか。)
準備するもの 付	・色鉛筆 (色カードでもよい) ・虹の塗り絵カード (各色の部分に1～7の番号をふったもの)
<b>活動内容/活動の流れ</b>	
<p>「虹」を扱って、「色」や「数字」を表す英語表現に慣れ親しませる活動です。</p> <p><b>虹の7色を確認する。</b>          ※色鉛筆 (色カードでもよい) を見せながら、虹の7色を確認します。          ※他の色 (white, black, gray など) を加えてもよいでしょう。</p> <p><b>指示された色をカードに塗る。</b>          ※虹の塗り絵カードのそれぞれの番号の部分に、指示された色を塗ります。番号を順不同に言うことによって、数字を聞き取る練習になります。</p> <p><b>塗り終えたカードの色や番号について尋ねる。</b>          ※色を塗り終えたら、番号を言って色を尋ねたり、色を言って番号を尋ねたりします。</p> <p><b>「虹」であることを確認する。</b>          ※完成したものが「虹」であることを確認し、あらためて虹の7色について尋ねます。</p> <p>※塗り絵カードの虹の配色          ①red ②orange ③yellow ④green ⑤blue ⑥indigo ⑦violet</p>	

こんな英単語も取りあげることができます

white (白) black (黒) gray (灰色)

こんな英語表現も取りあげることができます

“How many colors can you see in the rainbow?”

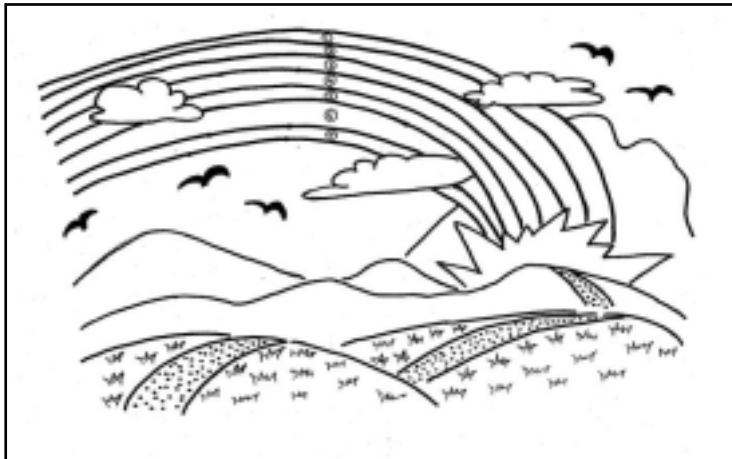
(虹にはいくつの色があるでしょうか?)

“Seven!”

“What colors are they?” (それらはどんな色ですか?)

“Red! Orange! Yellow! Green! Blue! Indigo! Violet!”

ここで使えるワークシート



ひとくちメモ

### 虹の色はいくつ?

虹の色はいくつあるでしょうか。虹は本当に7色なのでしょうか。そもそもなぜ7色なのでしょうか。微妙な色の変化を7色と数えたのはいつ頃からなのでしょう。

虹の色数は、国・地域、文化によって七色、六色、五色…と異なります。日本でも古くは五色、沖縄地方では二色とされていたところもあったようです。また、「色」そのもののとらえ方も国・地域、文化により様々です。

虹の色を扱うことは、子どもたちに諸外国・地域やその文化に興味・関心をもたせることにつながるといえるでしょう。

## 11 トピック 色・形(2)

活動の流れ	担任 (ALT) の動き スクリプトとして活用してください。
<p>①虹の7色を確認する。</p> <p>※色鉛筆(色カードでもよい)を見せながら、虹の7色を確認します。</p> <p>※他の色 (white, black, gray など) を加えてもよいでしょう。</p>	<p>【1】</p> <p>What color is this? Yes, this is red.            What color is this? Yes, this is orange.            What color is this? Yes, this is yellow.            What color is this? Yes, this is green.            What color is this? Yes, this is blue.            What color is this? Yes, this is indigo.            What color is this? Yes, this is violet.            (これは何色ですか。 そう、〇〇色です。)</p> <p style="text-align: right;">🔔</p>
<p>②指示された色をカードに塗る。</p> <p>※虹の塗り絵カードのそれぞれの番号の部分に、指示された色を塗ります。</p> <p>※番号を順不同に言うことによって、数字を聞き取る練習になります。</p>	<p>【2】</p> <p>Get your colored pencils. (色鉛筆を持ってください。)            Listen carefully. (よく聞いてください。)            Color number seven violet. (⑦(7番)に紫を塗ってください。)            Is that OK? (いいですか。)            Next, color number four green. (次に④(4番)に緑を塗ってください。)            Next, color number one red. ※虹の7色について同様に行います。            Next, color number five blue.            Next color number two orange.            Next color number six indigo.</p> <p style="text-align: right;">🔔</p>
<p>③塗り終えたカードの色や番号について尋ねる。</p> <p>※色を塗り終えたら、番号を言って色を尋ねたり、色を言って番号を尋ねたりします。</p>	<p>【3】</p> <p>What color is number seven? (⑦(7番)は何色ですか。)            Yes, it's violet. (そう、紫です。)            What number is red? Yes, number one is red.            (赤は何番ですか。そう、①(1番)が赤です。)            What color is number four? Yes, it's green.            (4番は何色ですか。そう、緑です。)            What number is indigo? Great! Number six is indigo.            (あいいろは何番ですか。そうです。⑥(6番)があいいろです。)</p> <p style="text-align: right;">🔔</p>
<p>④「虹」であることを確認する。</p> <p>※完成したものが「虹」であることを確認し、あらためて虹の7色について尋ねます。</p>	<p>【4】</p> <p>What's this? Yes, that's right. It's a rainbow. Rainbow.            (これはなんですか。そう、そのとおり。虹です。)</p> <p style="text-align: right;">🔔</p>

児童の活動	授業の進め方
<p>英語で聞かれた質問を聞いて、色を表す語を英語（または日本語）で答える。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>🔔の箇所で CD をとめて、英語（または日本語）で進めてください。</p> </div> <p>※児童の様子を見ながら、色によっては CD をとめて、その色を表す英語を繰り返し聞かせるとよいでしょう。</p> <p><b>Yes, this is indigo. Indigo. Indigo.</b></p> <p>🔔 塗り絵カードを配ります。</p>
<p>言われた番号に言われた色を塗っていく。 「いいですか。」 “OK?” の問いに反応する。</p>	<p>※ここでは color を「色を塗る」という意味の動詞で使います。</p> <p>🔔 色を塗り終えたか確認し、必要であれば番号と色を繰り返します。</p>
<p>質問に英語（または日本語）で答える。 例 “Violet!” “Red!” “Green!” “Indigo!”</p>	<p>🔔 番号と色を英語（または日本語）で確認します。</p>
<p>質問に英語（または日本語）で答える。 “Rainbow!” 「虹！」</p>	<p>🔔 虹や色についての話題を取りあげるとよいでしょう。</p>

## 12 トピック 色・形（3）

活動名	いろいろな形で絵を描いてみよう！
活動のねらい	・形を表す単語を聞き取ろうとしたり、言おうとしたりする。
取りあげる英単語	<形> shape (形) circle (円) triangle (三角形) square (正方形) rectangle (長方形) heart (ハート形) など形を表す語 <大きさ> big (大きい) small (小さい) <数> 数を表す英単語
取りあげる英語表現	Let's draw a picture with shapes! (いろいろな形で絵を描いてみましょう。) How many triangles (circles / squares / rectangles / hearts, etc...) did you use? (あなたはいくつの三角形[円/正方形/長方形/ハート形など]を使いましたか。)
準備するもの 付	・形の色カード（活動 10 で使用するものと同じ） ※パソコンに取り込んだ色カードをプロジェクタで投影してもよいでしょう。 ・絵を描くための紙（児童全員分）

### 活動内容/活動の流れ

いろいろな形を使って絵を描きながら、形と数を表す英語表現に慣れ親しむ活動です。

形を表す表現を確認する。

いろいろな形を使って「絵」を作る例を示す。

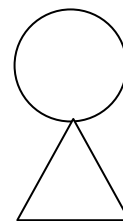
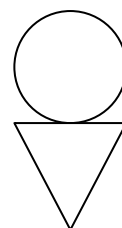
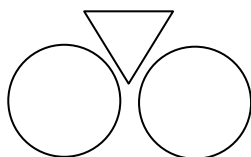
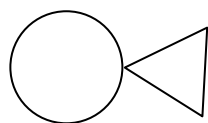
何の絵を描いたか、児童に考えさせる。

いくつかの形を与え、「絵」を描かせる。

何を描いたか発表させる。

児童それぞれに、好きな形を自由に使って絵を描かせる。

どんな形をいくつ使ったか発表させ、他の児童に何を描いたかを考えさせる。



こんな英単語も取りあげることができます

animal (動物) dog (犬) cat (猫)  
fish (魚) butterfly (チョウ) flower (花)  
star (星) sun (太陽) moon (月)  
bicycle (自転車) car (自動車)  
snowman (雪だるま)

こんな英語表現も取りあげることができます

いろいろな形を作ってみよう！

**Make a fish shape.** (魚の形を作ってください。)

**Make a butterfly shape.** (チョウの形を作ってください。)

**Can you make a star with it?** (星の形を作れますか?)

**Is it difficult?** (難しいですか?)

**I'll give you a hint. Two triangles make a star.**  
(ヒントをあげましょう。二つの三角形で星形ができます。)

何ができたかな？

※形やその数を指定して、先生が指示したものを作らせたり、子どもたちが好きなものを自由に作らせたりしてもよいでしょう。

※2人1組やグループで自由に何かを作らせてもよいでしょう。

※いろいろな大きさの形のカードを用意しておいて、子どもたちに自由に選べて何かを作らせてもよいでしょう。

## 12 トピック 色・形(3)

活動の流れ	担任(ALT)の動き スクリプトとして活用してください。
①形を表す表現を確認する。	<p>【1】 Today, we'll draw a picture with some shapes. (きょうはいろいろな形を使って絵を描きましょう。) First, let's check shapes. (最初に形を確認しましょう。) You can see 8 shapes on the board. (黒板に八つの形が見えますね。) What shapes are they? (どんな形ですか。) </p> <p>【2】 Circle! Square! Rectangle! Triangle! Star! Pentagon! Oval! Heart! Yes, eight shapes!  (円、正方形、長方形、三角形、星形、五角形、だ円、ハート形。そうです、8種類の形があります。)</p>
②いろいろな形を使って「絵」を作る例を示す。	<p>【3】 I'll use one circle and one triangle. (一つの円と一つの三角形を使います。) </p>
③何の絵を描いたか、児童に考えさせる。	<p>【4】 What can I draw? (私は何を描くでしょうか。) </p> <p>【5】 Yes, I'll draw ice cream! (そうです。アイスクリームを描きます。) </p>
④いくつかの形を与え、「絵」を描かせる。	<p>【6】 Next, it's your turn. (さあこんどはみなさんの番ですよ。) One circle and one triangle. What can you draw? (1つの円と1つの三角形です。何が描けますか。) </p>
⑤何を描いたか発表させる。	<p>【7】 OK. Are you ready? (さあできましたか。) What did you draw? (何を描きましたか。) </p>
⑥児童それぞれに、好きな形を自由に使って絵を描かせる。	<p>【8】 Now, you can use any shapes. (さあ、どんな形を使ってもいいですよ。) You can use a lot of shapes. (たくさん使ってもいいですよ。) </p>
⑦どんな形をいくつか使ったか発表させ、他の児童に何を描いたかを考えさせる。	<p>【9】 OK. Are you ready? ◎絵を描いた児童に ※他の児童には絵を見せない What did you use? (何を使いましたか。) Triangles? Circles? Squares? Rectangles? (三角形、円、正方形、それとも長方形?) And how many shapes did you use? (そしていくつ使いましたか。)  [その他の児童に]</p> <p>【10】 What's this? Can you guess?  ◎絵を描いた児童に What did you draw? (何を描きましたか。) Oh, you drew a bicycle! Very good! (自転車ですね。じょうずですね。)</p>

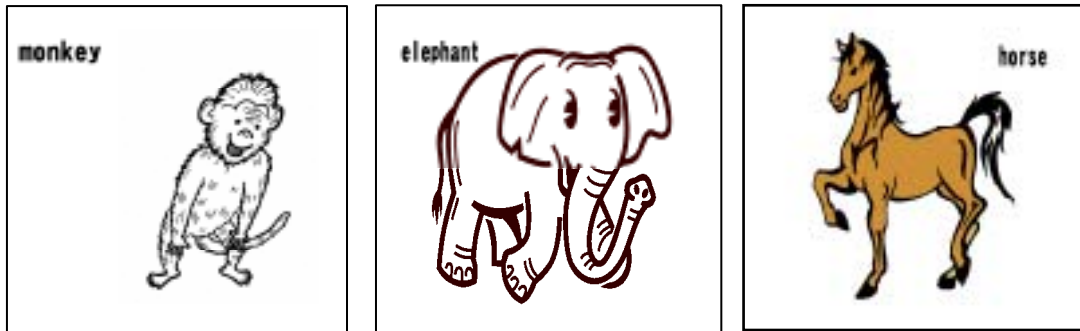
児童の活動	授業の進め方
担任または ALT の説明を聞き、示される例を見る。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             ♪の箇所で CD をとめて、英語（または日本語）で進めてください。           </div> ♪ 絵カードだけでなく、教室の中のいろいろな形に気付かせてもよいでしょう。 ♪ 8 種類の形があることを確認します。
一つの円と一つの三角形で何を描くことができるか考える。	♪ 一つの円と一つの三角形を使うことを伝えます。
思いついた絵を英語（または日本語）で言う。 例 「アイスクリーム！」	♪ 考える時間をとります。 ♪ 考えた絵（例ではアイスクリーム）を描く、または見せます。
一つの円と一つの三角形を使って「絵」を描く。	♪ 紙を配ります。考える時間をとります。
それぞれが描いた「絵」を英語（または日本語）で言う。 例 「魚！」 “Doll!” 「てるてるぼうず！」	♪ 何が描けたか尋ねます。
いろいろな形を好きなだけ使って「絵」を描く。	♪ 考える時間をとります。
何の形をいくつ使ったかを英語で言う。  例 “Two circles and one triangle.”  何を描いたか答える。 例 「自転車！」「おでん！」	♪ 絵を描いた児童 1 人に、どんな形をいくつ使ったか尋ねます。 <b>What shapes?</b> (どんな形?) <b>How many?</b> (いくつ?) ♪ 何を描いたか考えさせます。 ※描いた絵を見て、驚いたり褒めたりしましょう。 <b>Great! Good job! Wonderful!</b>



### 13 トピック からだの部位

活動名	描いた絵見せて！ どんな動物になった？
活動のねらい	・人や生き物のからだの部位を表す単語を聞き取ろうとしたり、言おうとしたりする。
取りあげる英単語	<p>&lt;からだの部位&gt;</p> <p>head (頭) eyes (目) ears (耳) nose (鼻) mouth (口)</p> <p>neck (首) arms (腕) hands (手) legs (脚) tail (尾)</p> <p>&lt;生き物&gt;</p> <p>monkey (猿) elephant (象)</p>
取りあげる英語表現	<p>Touch your ～. (～を触りましょう。)</p> <p>What body part is this? (これは何という部位ですか。)</p> <p>Draw an animal with ～. (～を持つ動物を描きましょう。)</p>
準備するもの 付	<p>・猿、馬、象、などの絵</p> <p>・画用紙とクレヨン (または色鉛筆)</p>
<b>活動内容/活動の流れ</b>	
<p>担任 (ALT) や児童が自分のからだの部位を指差したり触ったり、児童に猿、馬などの絵を見せたり、生き物の絵を描かせたりすることによって、人や生き物のからだの部位を表す英語表現に慣れ親しませる活動です。</p> <p>担任 (ALT) が自分のからだの各部位を指しながら、それを表す単語を言う。 ※ここでは、“Head, Shoulders, Knees and Toes”の歌を歌うことを想定しています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>— Head, Shoulders, Knees and Toes —</p> <p>Head, shoulders, knees and toes, knees and toes.</p> <p>Head, shoulders, knees and toes, knees and toes.</p> <p>Eyes and ears and mouth and nose.</p> <p>Head, shoulders, knees and toes, knees and toes.</p> </div> <p>児童に、担任 (ALT) の指示に従い自分のからだの部位を触らせる。</p> <p>猿、馬などの絵を見せながら、そのからだの各部位を表す単語を言う。</p> <p>児童に、担任 (ALT) が言う特徴を持った生き物を描かせる。 ※特徴を表す英語をゆっくりと繰り返しながら児童に聞き取らせましょう。 ※与えられた特徴をもとに自由に表現させましょう。 ※担任 (ALT) もいっしょに描きましょう。</p> <p>児童はお互いの絵を見せ合う。</p>	

ここで使える絵カード



こんな英単語も取りあげることができます

<からだの部位>

teeth (歯) shoulders (肩) elbows (ひじ) back (背中)

knees (ひざ) feet (足) toes (つま先) horn (角) wings (羽)

<生き物>

horse (馬) cow (牛) walrus (セイウチ) giraffe (キリン)

swan (白鳥)

こんな英語表現も取りあげることができます

活動内容 (左ページ) の においては、

Touch your ~. (~を触りましょう。) のほかにも

Open your mouth. (口を開きましょう。)

Close your eyes. (目を閉じましょう。)

Raise your hand. (手をあげましょう。)

などの表現を用いて、児童にその動作をさせてもよいでしょう。

### 13 トピック からだの部位

活動の流れ	担任 (ALT) の動き スクリプトとして活用してください。
①担任 (ALT) が自分のからだの各部位を指しながら、それを表す単語を言う。	<p>【 1 】</p> <p>Watch me, everyone. (みんな、私をよく見ていてください。)</p> <p>Head, eyes, ears, nose, mouth, neck,... (頭、目、耳、鼻、口、首…)</p> <p>◎からだの各部位に触れながら英語の表現を順番に言っていく。</p> <p>I'll sing a song. Please listen. (歌を歌いますよ。聞いて下さい。)</p> <p>◎からだの各部位に触れながら“Head, Shoulders, Knees and Toes”を歌う。🔔</p> <p>Let's sing together. (一緒に歌いましょう。) 🔔</p> <p>◎児童が後をついてまねできるように、適当な箇所で区切りながら進めていく。</p>
②児童に、担任 (ALT) の指示に従い自分のからだの部位を触らせる。	<p>【 2 】</p> <p>Do as I do. (私と同じようにやってください。)</p> <p>Are you ready? (用意はいいですか?)</p> <p>Touch your head. (頭に触ってください。)</p> <p>※eyes, ears, nose, mouth, neck などについても同様に行います。 🔔</p> <p>※慣れてきたら児童同士で指示を出し合うのもよいでしょう。</p>
③猿、馬などの絵を見せながら、そのからだの各部位を表す単語を言う。	<p>【 3 】</p> <p>Look at this picture. (この絵を見てください。)</p> <p>What animal is this? (この動物は何ですか。)</p> <p>Yes. It's a monkey. (そうです。猿ですね。)</p> <p>What body part is this? (このからだの部分は何かといいますか。)</p> <p>Yes. It's a head. (そうです。頭です。)</p> <p>How about this? (では、ここはどうですか。)</p> <p>This is a tail. It's a long tail. (しっぽです。長いしっぽですね。) 🔔</p> <p>※馬などほかの動物の絵を見せて同様に行います。</p> <p>※long (長い) short (短い) big (大きい) small (小さい) などの様態を表す語も活用して動物のからだの部位の特徴を示しましょう。</p>
④児童に、担任 (ALT) が言う特徴を持った生き物を描かせる。	<p>【 4 】</p> <p>Draw an animal with a long nose. (長い鼻の動物を描こう。)</p> <p>※a long neck (長い首) a short tail (短いしっぽ) big eyes (大きい目) などについても同様に行うことができます。</p> <p>Draw an animal with a long tail and big eyes. (しっぽが長くて目の大きい動物を描こう。)</p> <p>※複数の特徴を組み合わせてみるのもよいでしょう。 🔔</p>
⑤児童はお互いの絵を見せ合う。	<p>【 5 】</p> <p>Are you finished? (終わりましたか?)</p> <p>This is my animal. (これは私が描いた動物です。)</p> <p>It's an elephant. It has a long nose. (象です。長い鼻がありますね。)</p> <p>Now show your animal to your friends. (さあ、皆さんが描いた動物を友だちに見せましょう。)</p> <p>(さあ、皆さんが描いた動物を友だちに見せましょう。)</p> <p>🔔</p>

児童の活動	授業の進め方
<p>担任（ALT）の動きに注目する。</p> <p>担任（ALT）の後について同じ動作をしながら歌う。</p>	<p>📢の箇所では CD をとめて、英語（または日本語）で進めてください。</p> <p>📢 最初は <b>Head. Eyes.</b> のように 1 語ずつ、次に <b>Head and eyes.</b> のように 2 語ずつなど、徐々に区切りを長くしていくのもよいでしょう。</p> <p>※歌を歌わなくても、担任（ALT）がからだの各部位に触れながら英語の表現を言っていただけでもよいでしょう。</p>
<p>指示されたとおりに、自分のからだの各部位に触れていく。</p>	<p>📢 <b>Touch your ～.</b> の表現を次々に言っていきます。始めはゆっくりと行い、徐々に速度を上げていくとよいでしょう。</p>
<p>担任（ALT）の問いかけに英語（または日本語）で応答していく。</p> <p>例 <b>"Monkey!"</b> <b>"Head!"</b> 「しっぽ！」</p> <p>示された絵を見ながら担任（ALT）の言う英語に耳を傾ける。からだの部位名と共にその様態を表す英語にも注目する。</p>	<p>📢 いろいろな動物の絵を見せながら、その特徴を表す英語表現を言っていきます。</p>
<p>担任（ALT）の言った特徴をもつ動物を描く。</p>	<p>📢 児童に、指示した特徴をもつ動物を自由に描かせます。</p>
<p>担任（ALT）が描いた絵を見て、特徴を表す英語表現を確認する。</p> <p>自分が描いた絵を友だちに見せながら、その特徴を表す英語を言う。</p>	<p>📢 児童同士のやりとりを観察しながら、<b>Great! Good job.</b> などの言葉をかけていきます。</p>

## 14 トピック 地図

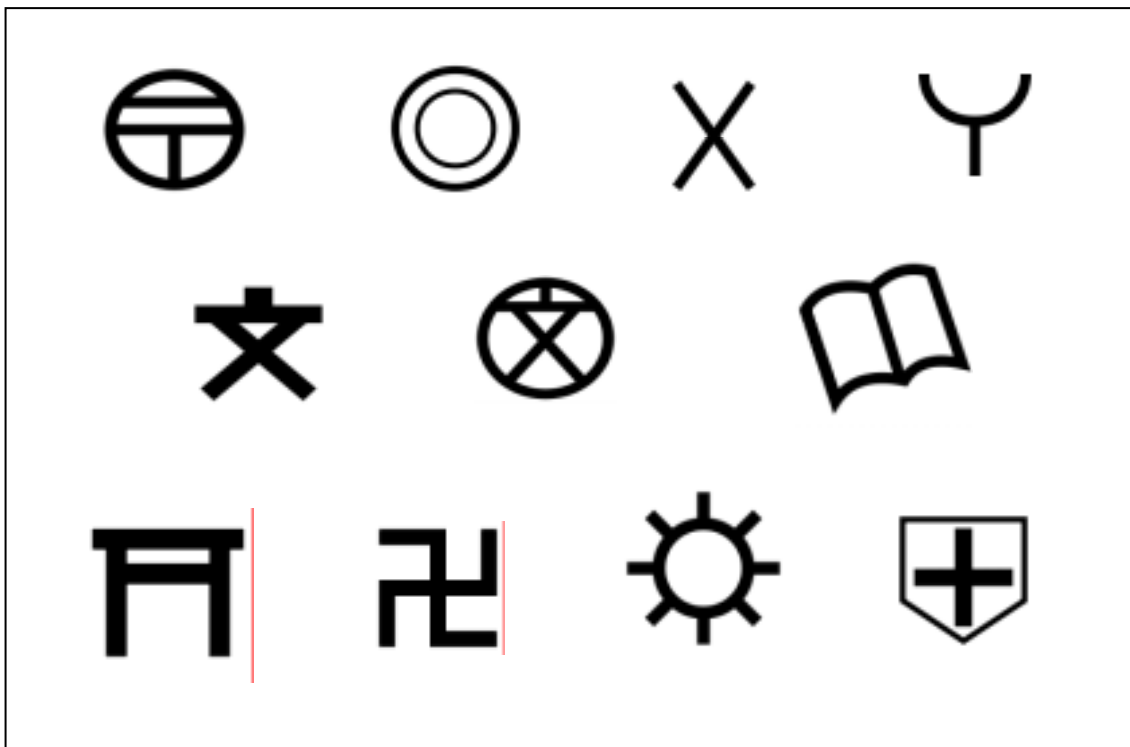
活動名	地図記号カードで遊ぼう！
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物や場所を表す単語を聞き取ろうとしたり、言おうとしたりする。</li> <li>・自分たちが住んでいる地域に興味・関心をもつ。</li> </ul>
取りあげる英単語	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">             学校周辺の状況に応じて、取りあげる英単語を選びましょう。         </div> post office (郵便局)    school (学校)    town (町)    map (地図) spread (広げる)
取りあげる英語表現	What's this? (これは何ですか。) How about this? (これについてはどうですか。) How many cards do you have? (何枚カードを持っていますか。) What cards do you have? (何のカードを持っていますか。) Who has the card for ~? (~のカードを持っているのはだれですか。)
準備するもの 付	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を中心にした周辺地図 (クラス全体掲示用)              ※手描きの略図でもよいでしょう。</li> <li>・地域にある建物や場所を表す地図記号カード              ※各グループで利用できるだけのセット数を用意しましょう。              ※各グループに同種類のカードを複数枚用意しておけば、同グループ内で、複数の児童が同じカードを取ることができます。</li> </ul>
<b>活動内容/活動の流れ</b>	
<p>地図記号カードを使って、カルタゲームをしながら、建物や場所を表す英語表現に慣れ親しませるとともに、自分たちが住んでいる地域に興味・関心をもたせる活動です。</p> <p>地図記号カードを使い、各記号が何を表すのかを確認しながら、建物や場所を表す単語を言う。</p> <p>学校を中心にした周辺地図を使って、実際にある建物や場所の位置を確認しながら、その地図中に地図記号をあてはめる。</p> <p>グループを作り、カルタゲームを行う。</p> <p>児童がカードを何枚取ったか、また、どの記号のカードを取ったかを尋ねる。</p>	

こんな英単語も取りあげることができます

<建物>

city hall (市役所)    police box (交番)    fire station (消防署)  
elementary school (小学校)    junior high school (中学校)  
high school (高校)    library (図書館)    shrine (神社)    temple (寺)  
factory (工場)    hospital (病院)

ここで使える絵カード



ひとくちメモ

カルタゲームを行う際には、たとえば、あるカードのすみに小さく♥や★などの印を描いておき、それをラッキーカードとするなど、取った枚数が少なくても児童ががっかりすることがないように工夫を加えることも大切です。

## 14 トピック 地図

活動の流れ	学級担任 (ALT) の動き スクリプトとして活用してください。
<p>①地図記号カードを使い、各記号が何を表すのかを確認しながら、建物や場所を表す単語を言う。</p>	<p><b>【 1 】</b>            I'll show you some cards. (これからカードを見せます。)            Look at this first. (まずはこれを見てください。)            ◎郵便局の地図記号カードを見せて            What's this? (これは何ですか。)            Very good! This is "Post Office." (そうです。これは「郵便局」です。)            How about this? (ではこれはどうですか。)</p> <p>※他のカードについても同様に行います。</p>
<p>②学校を中心にした周辺地図を使って、実際にある建物や場所の位置を確認しながら、その地図中に地図記号をあてはめる。</p>	<p>黒板に学校周辺の地図をはる。</p> <p><b>【 2 】</b>            This is a map of our town. (これは私たちの町の地図です。)            ◎地図上の学校、駅、その他周辺にある建物や場所を指しながら            Our school is here. The station is here. (私たちの学校はここ。駅はここです。)            ◎郵便局の地図記号カードを提示して            Where is the post office? (郵便局はどこにありますか?)            ◎児童を指名して Come here, ○○san. (○○さん、来てください。)            Put the card on the map. (地図にカードをはってください。)</p> <p>※他のカードについても同様に行います。</p>
<p>③ 5～6人のグループを作り、カルタゲームを行う。</p>	<p><b>【 3 】</b>            Now, we'll play a "karuta" game. (カルタゲームをしましょう。)            Let's make groups of 5 people. (5人のグループを作りましょう。)            Put your desks together. (机を合わせてください。)            I'll give the cards to each group. (各グループにカードを配ります。)            Spread the cards on the desks. (カードを机の上に広げてください。)</p> <p>◎担任が日本語でルールを簡単に説明する。            TTであれば、担任とALTのデモンストレーションによってやり方を示すことができる。</p> <p>Let's start. Take the card for "Hospital!" (始めよう。「病院!」)</p> <p>The game is over. (ゲーム終了です。)            Count your cards. (自分のカードを数えてください。)</p>
<p>④児童がカードを何枚取ったか、また、どの記号のカードを取ったかを尋ねる。</p>	<p><b>【 4 】</b>            How many cards do you have? (何枚カードを持っていますか?)            What cards do you have? (何のカードを持っていますか?)            Who has the card for "Library?" Raise your hand.            (「図書館」のカードを持っている人はだれ? 手をあげてください。)</p>

児童の活動	授業の進め方
<p>担任（ALT）が示す地図記号を見ながら、その英語表現を注意してよく聞く。</p>	<p>🔔の箇所で CD をとめて、英語（または日本語）で進めてください。</p> <p>🔔 ②と③の活動で用いる地図記号カードを1枚ずつ見せながら、その英語表現を言っていきます。</p>
<p>担任（ALT）が提示する記号が、地図上のどの位置に来るべきか考える。</p> <p>指名された児童は、記号カードを黒板の地図の上にはっていく。</p>	<p>🔔 児童に質問しながら、地図記号カードを黒板の地図上にはりつけさせていきます。</p>
<p>グループを作り、配られたカルタカードを机の上に広げる。</p> <p>担任の説明（または担任とALTとのデモンストレーション）により、ゲームのやり方を理解する。</p> <p>ゲームを終えて、自分のカードの枚数を数える。</p>	<p>🔔 ルールを説明します。</p> <p>🔔 担任（ALT）が地図記号の英語表現を一つずつ読み上げていきます。</p> <p>🔔 みんなで一緒に声を合わせて <b>One, two...</b> と数えていってもよいでしょう。</p>
<p>担任（ALT）の問いかけに対して、英語（または日本語）および挙手で答える。</p> <p>例 “Three!” 「3枚！」  “Post office!” 「郵便局！」</p>	<p>🔔 英語の質問が長くてわかりにくいようであれば、<b>How many? What card (is that)? (Is that) 'post office'?</b> のように簡略化した形を用いて質問してもよいでしょう。</p>



## 15 トピック 月・曜日

活動名	生まれた日は何曜日だった？
活動のねらい	・ 月、曜日を表す単語を聞き取ろうとしたり、言おうとしたりする。
取りあげる英単語	month (月) birthday (誕生日) Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday Sunday (月・火・水・木・金・土・日曜日) ※曜日を表す英語については、すでにある程度は慣れ親しんでいるという前提でこのトピックの活動を行います。 January February March April May June July August September October November December (1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12月)
取りあげる英語表現	What month is this? (これは何月ですか。) My birthday is ~. (わたしの誕生日は~です。) Who was born in ~? (~月生まれはだれですか。) I was born on ~. (~曜日に生まれました。) How about you? (あなたはどうですか。)
準備するもの 付	・ カレンダー ※付録 CD の「万年カレンダー」を活用してください。 児童の生まれ年のカレンダー(該当する年度の4月~3月)を出力します。 活動に適した大きさを用意してください。 担任 (ALT) の生まれ月のカレンダーも1枚用意しておきます。
<b>活動内容/活動の流れ</b>	
<p>カレンダーを使って、「月」、「曜日」を表す英語表現に慣れ親しませる活動です。</p> <p><b>各月のカレンダーを1枚ずつ児童に示しながら、月を表す英語を言っていく。</b> ※万年カレンダーには月名を表す数字が書かれていませんので、イラストをヒントにそれが何月のカレンダーなのか児童に考えさせます。無作為な順番で各月のカレンダーを提示し、確認が済んだものから黒板にはっていきます。黒板にあらかじめ日本語で「1月」~「12月」と書き、はる位置を示しておくとうわかりやすいでしょう。</p> <p><b>自分の生まれ月の英語名に関心を向けさせる。また、何曜日生まれなのかを、カレンダーを見て児童に確かめさせる。</b> ※児童が見やすい位置にカレンダーを移動させるか、余分に1セット用意して別の場所にも張り出すとよいでしょう。</p> <p><b>同じ月または同じ曜日生まれの友だちをさがす。</b> ※手のひら程のサイズのカードを用意して配り、自分の生まれ月の数字と曜日を書かせます。(日本語でよい。) できるだけたくさんの友だちに話しかけて、同じ月または曜日生まれの人をさがします。見つけたら、カードの余白にその友だちのサインをもらいます。</p>	

こんな英語表現も取りあげることができます

カレンダーを利用した活動で次のような表現を取りあげることもできます。

<曜日・日付に関する応答表現例>

**What day is today? — It's Monday.**

(今日は何曜日ですか。 — 月曜日です。)

**What's the date today? — It's May 7.**

(今日は何日ですか。 — 5月7日です。)

<週や月の日数に関する応答表現例>

**How many days are there in a week? — There are 7 days in a week.**

(一週間は何日ありますか。 — 7日です。)

**How many days are there in July? — There are 31 days in July.**

(7月は何日ありますか。 — 31日です。)

<国民の祝日に関する応答表現例>

**November 3 is a national holiday. — We have no school.**

(11月3日は国民の祝日です。 — 学校はありません。)

**What national holiday is it? — It is Culture Day.**

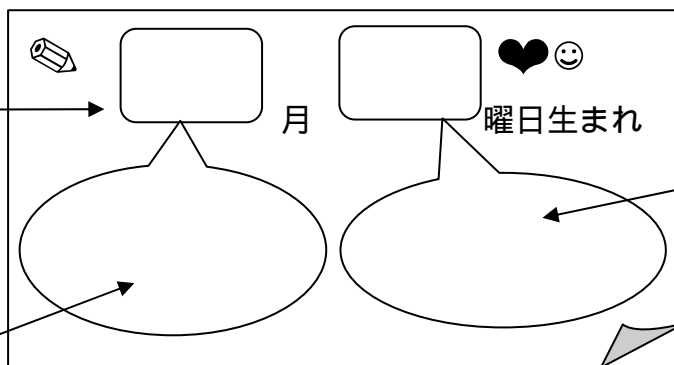
(何の祝日ですか。 — 文化の日です。)

ここで使えるカードの例

活動内容 (左ページ) の において、児童が用いるカードの一例です。





☆自分が生まれた月と曜日を書きます。

☆同じ月生まれの友だちのサインを書きます。



☆同じ曜日生まれ  
の友だちのサイン  
を書きます。

## 15 トピック 月・曜日

活動の流れ	担任 (ALT) の動き スクリプトとして活用してください。
①各月のカレンダーを1枚ずつ児童に示しながら、月を表す英語を言っていく。	<p>【1】 「桜の木」のイラストがある4月のカレンダーを見せて  <b>Look at this calendar. You see cherry trees.</b>            (このカレンダーを見てください。桜の木が見えますね。)  <b>What month is this?</b> (これは何月ですか。)  <b>Yes. This is April.</b> (そう。4月です) </p> <p>※ほかの月のカレンダーについても同様に英語名を言っていきます。</p>
②自分の生まれ月の英語名に関心を向けさせる。また、何曜日生まれなのかを、カレンダーを見て児童に確かめさせる。	<p>【2】 ◎黒板の8月のカレンダーを指しながら  <b>My birthday is August 10.</b> (私の誕生日は8月10日です。)  <b>I was born in August.</b> (私は8月生まれです。)  <b>How about you?</b> (あなたたちはどうですか。)            ◎4月のカレンダーを指しながら  <b>Who was born in April? Raise your hand.</b>             (4月生まれの人はだれですか。手をあげてください。)            ※順番にカレンダーを指しながら5月以降についても同様に問いかけていきます。</p> <p>【3】 担任 (ALT) が自分の生まれた年・月 (この例の場合は1975年) のカレンダーを見せて  <b>Look at this calendar.</b> (このカレンダーを見てください。)  <b>I was born in August. I was born on August 10. It was Sunday. I was born on Sunday.</b> (私は8月に生まれました。8月10日、日曜日生まれです。)  <b>How about you?</b> (あなたたちはどうですか。)            ◎掲示してあるカレンダーの方へ手招きして  <b>Come here and look.</b> (ここへ来て見てみましょう。) </p>
③同じ月または同じ曜日生まれの友だちをさがす。	<p>児童にカードを配った後、担任 (ALT) が自分のカードを手を持って生まれ月の数字と曜日を書き込む。(日本語でよい。)</p> <p>【4】  <b>I was born in August, on Sunday.</b> (私は8月の日曜日生まれです。)  <b>How about you? August? No. Sunday? Yes!</b>  <b>Please write your name.</b>             (あなたは? 8月? 違うのですね。では日曜日? そうですか! 名前を書いてください。)            ※数人の児童に尋ね、<b>August</b> または <b>Sunday</b> のいずれかが同じ場合はお互いのカードにサイン (日本語でよい。) し合うところを実演して見せます。            ◎児童が自分のカードに生まれた月と曜日を記入するのを待ってから  <b>Now ask your friends.</b> (さあ、友だちに尋ねましょう。)            ◎尋ね終わったら、相手に <b>Thank you.</b> というように伝える。  <b>After you ask your friends, say "Thank you."</b>            (友だちに尋ねた後は「Thank you.」と言いましょう。)</p>

児童の活動	授業の進め方
<p>イラストを手がかりに、何月のカレンダーなのか日本語で答えていく。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>🔊の箇所でCDをとめて、英語(または日本語)で進めてください。</p> </div> <p>🔊 示す順は無作為でも、黒板にはる時には、月の順番になるように並べていきます。</p>
<p>月を表す英語名、特に自分が生まれた月の英語名に注意を向ける。</p> <p>担任 (ALT) の問いかけに手をあげて反応する。</p> <p>担任 (ALT) の説明を聞いた後で、自分の生まれた月のカレンダーの所まで行き、何曜日生まれなのか確かめる。</p>	<p>🔊 問いかけていく際には、手をあげた児童の数についてコメントするなど、月名の英語をできるだけ繰り返して聞かせるようにするとよいでしょう。</p> <p>例 <b>Who was born in June?</b>  <b>Three people were born in June.</b>  (6月生まれの人は3人ですね。)</p> <p>🔊 カレンダーを見ている児童のそばで、月・曜日の英語を言ってあげるとよいでしょう。</p> <p>例 <b>January, Monday?</b> (1月の月曜日なの?)</p>
<p>担任 (ALT) にならって、カードに自分の生まれた月の数字と曜日 (日本語でよい。) を書く。</p> <p>カードと筆記用具を持って、自分と同じ月または曜日生まれの友だちをさがす。見つけたらカードにサインし合う。サインをしてもらったら、その相手に“Thank you.”と言って、次の友だちのところへ行く。</p> <p>例 児童 1: <b>September? Friday?</b>  (9月?金曜?)</p> <p>児童 2: <b>Friday? Yes!</b>  (金曜?そうだよ!)</p> <p>児童 1: <b>Thank you.</b></p>	<p>🔊 児童が、自分から進んで話しかけようとする、また、友だちからの問いかけに答えようとする意欲をもてるように、励ましの言葉をかけましょう。</p> <p>例 <b>Nice try! Good job! Try it again!</b></p> <p>※児童が、自分の言うべき月・曜日の英語名がわからなくなった時に、担任 (ALT) や友だちに助けを求めやすい雰囲気を作っておきましょう。</p>



### 英語活動が小学校教育に加わることで

小学校高学年では1年間に900時間を超える授業があります。その中で、英語活動が実施される時間は全体の数%でしかありません。このわずかな時間を「英語」という特別なものに充てるととらえるのではなく、すべての教科、領域等が相互に関連し合い、総合的に実践される小学校教育の中の「一教育活動」として、英語活動を立案、実施することが大切です。

英語活動だからといって、必ずしも英語そのものに慣れ親しむことだけが「活動のねらい」になるわけではありません。例えば、ALTをはじめとするネイティブの先生が来る授業の前に、その先生の出身国について下調べをした上で話を聞くことができれば、子どもたちはより効果的な「異文化間コミュニケーション」を体験することができます。また、国語、社会、算数、理科などにおける既習内容を扱えば、学んだ内容を再確認させるとともに、あらためてその内容に興味・関心をもたせることができます。さらに、グループによる作業を通じて友だちと協力し合う活動などは、コミュニケーション能力の育成につながります。

小学校教育に英語活動が加わることは、子どもたちのもつ柔軟な適応力の可能性をさらに広げる機会になるといえるでしょう。

## 資料編

### 先生が授業で使用する英語表現

付録 CD に音声収録してあります。

#### あいさつをする

<ul style="list-style-type: none"><li>• Good morning, everyone.</li><li>• Good afternoon.</li><li>• Hello. / Hi.</li><li>• Is everybody here?</li><li>• Who's absent today?</li><li>• How are you, today? I'm fine, thank you. And you?</li><li>• What day is it today? It's Monday.</li><li>• What's the date today? It's April 14th.</li><li>• How's the weather today? It's fine/cloudy/rainy.</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>みなさん、おはようございます。</li><li>こんにちは。</li><li>一日中いつでも使えるあいさつ</li><li>みんないますか。</li><li>今日は誰がお休みですか。</li><li>今日の調子はどうですか。</li><li>元気です。</li><li>あなたの調子はどうですか。</li><li>今日は何曜日ですか。</li><li>月曜日です。</li><li>今日は何日ですか。</li><li>4月14日です。</li><li>今日の天気はどうですか。</li><li>晴れ / 曇り / 雨です。</li></ul>
---	---

#### 授業を始める

<ul style="list-style-type: none"><li>• Take your seats.</li><li>• Go back to your seats.</li><li>• Sit down.</li><li>• Sit up straight.</li><li>• Are you ready?</li><li>• Let's start.</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>席につきましょう。</li><li>自分の席に戻りましょう。</li><li>座りましょう。</li><li>きちんと座りましょう。</li><li>準備はいいですか。</li><li>始めましょう。</li></ul>
--	--

#### 授業中の活動、作業、動作などについて指示する

<ul style="list-style-type: none"><li>• Come up here.</li><li>• Come up to the blackboard.</li><li>• Come up to the front.</li><li>• Come forward.</li><li>• Come closer.</li><li>• Go back.</li><li>• Stand up.</li><li>• Sit on the floor.</li><li>• Put your desks together.</li><li>• Move your desk back.</li><li>• Let's sing a song.</li><li>• Do you know this song?</li><li>• Let's sing together.</li><li>• Let's practice together.</li><li>• Let's play a game.</li><li>• Time's up.</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ここへ来てください。</li><li>黒板のところに来てください。</li><li>前に来てください。</li><li>前のほうに来てください。</li><li>もっと近くに来てください。</li><li>後ろに下がってください。</li><li>立ってください。</li><li>床に座ってください。</li><li>席をくっつけましょう。</li><li>机を後ろに下げましょう。</li><li>歌を歌いましょう。</li><li>この歌を知っていますか。</li><li>いっしょに歌いましょう。</li><li>いっしょに練習しましょう。</li><li>ゲームをしましょう。</li><li>終わりです。</li></ul>
--	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>• Please stop.</li> <li>• The game is over.</li> <li>• Listen to the CD.</li> <li>• Can you hear me?</li> <li>• Watch me.</li> <li>• Look at me.</li> <li>• Look at the blackboard.</li> <li>• Look at the screen.</li> <li>• Look at this picture.</li> <li>• Point at the animal that I said.</li> <li>• Can you find the cat in this picture?</li> <li>• What can you see?</li> <li>• Can everybody see?</li> <li>• Do you know what this is?</li> <li>• I'll give you 3 hints.</li> <li>• Do you understand?</li> <li>• Who wants to try?</li> <li>• Raise your hand.</li> <li>• Close your eyes.</li> <li>• Open your book.</li> <li>• Clap your hands.</li> <li>• Tap your desk.</li> <li>• Touch your head.</li> <li>• Put your left hand behind your neck.</li> <li>• Do as I do. / Copy me.</li> <li>• Don't show your card to your friends.</li> <li>• Hide your card behind your back.</li> <li>• Show me.</li> <li>• Here you are.</li> <li>• Show me your card.</li> <li>• Take one card from this box.</li> <li>• Spread the cards.</li> <li>• Collect the cards.</li> <li>• I'm going to hand out some cards.</li> <li>• There are 7 cards in all.</li> <li>• Pass around these cards.</li> <li>• Did you get a card?</li> <li>• Point to the green card.</li> <li>• Do you have colored pencils?</li> <li>• Do you have this worksheet?</li> <li>• Color the car red.</li> <li>• Draw a line.</li> <li>• Draw a triangle.</li> <li>• Erase this line.</li> <li>• What's this in English?</li> <li>How do you say this in English?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止めてください。</li> <li>ゲームは終わりです。</li> <li>CDを聞きましょう。</li> <li>私の声が聞こえますか。</li> <li>私をよく見てください。</li> <li>私を見てください。</li> <li>黒板を見てください。</li> <li>スクリーンを見てください。</li> <li>この絵を見てください。</li> <li>私が言った動物を指さしましょう。</li> <li>この絵の中にネコを見つけられますか。</li> <li>何が見えますか。</li> <li>みんな見えますか。</li> <li>これが何だかわかりますか。</li> <li>ヒントを三つあげましょう。</li> <li>分かりますか。</li> <li>誰かやってみたい人はいますか。</li> <li>手をあげましょう。</li> <li>目を閉じましょう。</li> <li>本を開きましょう。</li> <li>手をたたきましょう。</li> <li>机を軽くたたきましょう。</li> <li>頭を触りましょう。</li> <li>首の後ろに左手をあてましょう。</li> <li>私と同じようにやってください。</li> <li>カードを友だちに見せてはいけません。</li> <li>カードを体の後ろに隠しましょう。</li> <li>見せてください。</li> <li>はいどうぞ。</li> <li>カードを見せてください。</li> <li>この箱の中からカードを1枚取りましょう。</li> <li>カードを広げてください。</li> <li>カードを集めてください。</li> <li>これからカードを配ります。</li> <li>カードは全部で7枚です。</li> <li>これらのカードを順に回してください。</li> <li>カードはもらいましたか。</li> <li>緑色のカードを指しなさい。</li> <li>色鉛筆をっていますか。</li> <li>このワークシートをっていますか。</li> <li>自動車を赤色に塗りましょう。</li> <li>線を描いてください。</li> <li>三角形を描いてください。</li> <li>この線を消してください。</li> <li>これは英語で何と言いますか。</li> </ul>
---	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>• Can I borrow your pencil?</li> <li>• Can I use this?</li> <li>• How about you?</li> <li>• Is this OK?</li> <li>• Are you all right?</li> <li>• Are you finished?</li> <li>• Me, too.</li> <li>• Help me, please.</li> <li>• Shake hands with your partner.</li> <li>• Please close the curtain.</li> <li>• Turn on the light.</li> <li>• Turn off the light.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆を借りてもいいですか。</li> <li>これを使ってもいいですか。</li> <li>あなたはいかがですか。</li> <li>これでいいですか。</li> <li>大丈夫ですか。</li> <li>終わりましたか。</li> <li>私もです。</li> <li>誰か手伝ってください。</li> <li>パートナーと握手をしましょう。</li> <li>カーテンを閉めてください。</li> <li>明かりをつけてください。</li> <li>明かりを消してください。</li> </ul>
--	---

### ペアやグループなどを作る

<ul style="list-style-type: none"> <li>• We're going to work in pairs.</li> <li>• Make pairs.</li> <li>• Change partners.</li> <li>• Make groups of three.</li> <li>• Make six groups of five.</li> <li>• Line up here.</li> <li>• Make four lines.</li> <li>• Let's make two teams.</li> <li>• Let's make a big circle.</li> <li>• Sit in a circle.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアで作業をします。</li> <li>ペアを作りましょう。</li> <li>パートナーを変えましょう。</li> <li>3人組を作りましょう。</li> <li>5人のグループを六つ作りましょう。</li> <li>ここに並んでください。</li> <li>4列になってください。</li> <li>2チームに分かれましょう。</li> <li>大きな輪を作りましょう。</li> <li>円になって座りましょう。</li> </ul>
---	--

### 順番を言う

<ul style="list-style-type: none"> <li>• Decide the order.</li> <li>• Whose turn is it?</li> <li>• Who is first?</li> <li>• Mariko is first.</li> <li>• You are next, Akira.</li> <li>• It's your turn, Hiromi.</li> <li>• Who goes last?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>順番を決めてください。</li> <li>誰の番ですか。</li> <li>最初は誰ですか</li> <li>最初はマリコさんです。</li> <li>アキラさん、次はあなたですよ。</li> <li>ヒロミさん、あなたの番ですよ。</li> <li>最後は誰ですか。</li> </ul>
--	--

### 子どもたちを褒める

<ul style="list-style-type: none"> <li>• That's right.</li> <li>• Good! / Great! / Good job!</li> <li>  Good try! / Well done!</li> <li>• Wonderful! / Excellent! / Perfect!</li> <li>• Good for you.</li> <li>• Congratulations!</li> <li>• You listened very well.</li> <li>• Good idea!</li> <li>• Give him/her/them a big hand.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>そのとおりです。正解です。</li> <li>よくできました。</li> <li>素晴らしいですね。</li> <li>頑張りましたね。</li> <li>おめでとう。</li> <li>よく聞き取れました。</li> <li>それはいい考えですね。</li> <li>彼 / 彼女 / 彼らに拍手を送りましょう。</li> </ul>
--	---



### 子どもたちを励ます

<ul style="list-style-type: none"><li>• Cheer up.</li><li>• Never mind. / Don't worry.</li><li>• It's OK to make a mistake.</li><li>• Don't give up.</li><li>• Nice try!</li><li>• Close!</li><li>• Try it again.</li><li>• Good luck!</li><li>• You can do it.</li><li>• Don't be shy.</li><li>• That's OK.</li><li>• Take it easy.</li><li>• Take your time.</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>頑張ってください。</li><li>心配しないでください。</li><li>間違えてもかまいません。</li><li>あきらめないでください。</li><li>よく頑張りましたね。</li><li>おいしいですね。</li><li>もう一度やっってください。</li><li>頑張ってください。</li><li>あなたならできますよ。</li><li>恥ずかしがらないでください。</li><li>それでいいですよ。それで大丈夫ですよ。</li><li>落ち着いて。</li><li>ゆっくりやっってください。</li></ul>
--	---

### 子どもたちを注意する

<ul style="list-style-type: none"><li>• Look, everyone. / Pay attention.</li><li>• Be quiet.</li><li>• Listen carefully.</li><li>• Stop talking.</li><li>• Watch carefully.</li><li>• I can't hear you.</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>みんな、注目してください。</li><li>静かにしましょう。</li><li>よく聞いてください。</li><li>おしゃべりをやめましょう。</li><li>よく見てください。</li><li>聞こえません。</li></ul>
---	--

### お礼を言う

<ul style="list-style-type: none"><li>• Thanks. / Thank you.</li><li>Thanks a lot. / Thank you very much.</li><li>• Thank you for your help.</li><li>• You're welcome.</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ありがとうございます。</li><li>手伝ってくれてありがとうございます。</li><li>どういたしまして。</li></ul>
--	--

### 授業を終える

<ul style="list-style-type: none"><li>• There goes the bell.</li><li>• It's time to stop.</li><li>• That's all for today.</li><li>• Did you enjoy today's class?</li><li>• Take care.</li><li>• Good-bye.</li><li>• See you.</li><li>• See you next time.</li><li>• See you tomorrow.</li><li>• See you next week.</li><li>• Have a nice weekend.</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>チャイムが鳴りました。</li><li>終わりの時間です。</li><li>今日はこれで終わりです。</li><li>今日の授業は楽しかったですか。</li><li>気をつけて。</li><li>さようなら。</li><li>また会いましょう。</li><li>また次回会いましょう。</li><li>また明日会いましょう。</li><li>また来週会いましょう。</li><li>楽しい週末を過ごしてください。</li></ul>
---	--

## ALT と無理なくコミュニケーションを図るために

ALT とチーム・ティーチングについて打合せをするとき、以下の英語表現を使うと便利です。

### 例えば、チーム・ティーチングの打合せ

- 1 ALT に話しかけるとき  
ALT が何かをしているときや、誰かと話しているところを  
中断するとき ・ Excuse me.
- 2 ALT が言ったことを聞き返すとき  
ALT にもう少しゆっくり言ってもらいたいとき  
意味がよく分からないとき ・ Sorry.
- 3 ALT の提案や、示されたアイデアについて「それはいいですね。」と伝えたいとき  
・ Sounds good. / I like it.
- 4 相手の提案や、示されたアイデアについて、その例示や説明をもっと聞きたいとき  
相手の言っていることを大まかにはわかっているが、もう少し詳しく説明してほしいとき  
・ Sounds good. Can you show me some examples?
- 5 相手の提案や、示されたアイデアについて「う～ん、ちょっとそれは...よくないかなあ...。」  
と伝えたいとき  
・ Sounds nice, but ~. できれば「～」に理由を当てはめましょう。  
[理由の例] Too difficult for kids. (子どもには難しすぎます。)  
Childish. (子どもっぽいです。)
- 6 少し考えたいとき  
英語がすぐに出てこないとき ・ Well... / Let me see.
- 7 相手が何を言ったのかわからないが、多分こういうことを言いたいのだろうと思うとき  
相手が言っていることを確認したいとき ・ You mean...



8 ALTに何かを頼みたいとき

「～」に「してもらいたい動作」を表す英語を当てはめて

- ・ Please ～ .
- ・ Can you ～ ?
- ・ Will you ～ ?
- ・ I'd like you to ～ .

9 自分が「～したい」と申し出るとき

「～」に「したい動作」を表す英語を当てはめて

- ・ I want to ～ .
- ・ I'd like to ～ .
- ・ I'm going to ～ .

10 「いっしょに～しましょう」と申し出るとき

「～」に「いっしょに～する動作」を表す英語を当てはめて

- ・ Let's ～ .
- ・ Shall we ～ ?

11 手順を説明するとき

「～」に「次にしてもらいたい動作」を表す英語を当てはめて

- ・ You'll ～ .

「～」に「次に自分がする動作」を表す英語を当てはめて

- ・ I'll ～ .

こんなふうに打合せを進めてみましょう。

担任 : Excuse me. I want to talk about a lesson plan.

ALT : Sure. Which class? When is the next lesson?

担任 : Next Monday. Class 5-2.

ALT : OK. What do you want to do?

担任 : Numbers.

ALT : Numbers?

You are planning to have a lesson on numbers, right?

担任 : Yes! Do you have any idea?

ALT : Yes, I have an idea.

I'll show it to you and then let's think about it together.

## 例えば、授業中

ALT と子どもたちをつなぐ立場で英語を使ってみましょう！

### 1 ALT が活動内容について説明しているとき

ALT : Today, we are going to sing a song.

担任 : Let's sing a song. Are you ready, everyone?

ALT : Now, let's try to do a new game.

担任 : It's a key word game. Watch us. Do as we do.

ALT : Draw two circles.

担任 : OK! Let's draw two circles.

ALT : Next. Draw three triangles.

担任 : OK! Let's draw three triangles.

### 2 ALT の言うことが速くて子どもたちが聞き取れないとき

- More slowly, please.

### 3 ALT の説明を子どもたちが理解できないで、繰り返してほしいとき

- Once more, please.

### 4 ALT の言う英語表現が子どもたちにとって長すぎる時

- Too long.

### 5 ALT の使っている英語表現が子どもたちにとって難しすぎる時

- Too difficult.

## ALT とのコミュニケーションを図る際に役立つ英語表現

ALT とのコミュニケーションを図る際に、以下の英語表現を使うと便利です。

口頭で伝えることが難しい場合には、紙に書いたり、ここに示された英文を見せたりすればよいでしょう。

### A L T と対面するとき用いる表現

付録 CD に音声  
を収録してあります。

- Hello. My name is Akira Takeda. Nice to meet you.  
(はじめまして。私の名前は竹田明です。よろしくお願いします。)
- I'm in charge of the English classes at this school. (私は英語の主任をしています。)
- Please don't hesitate to ask me anything you want.  
(必要なことは遠慮しないで尋ねてください。)
- Now I want you to meet our principal, Mr. Nishimura. This way, please.  
(これから校長の西村をご紹介します。こちらへどうぞ。)
- Mr. Nishimura, this is Andy Richard. Andy, this is Mr. Nishimura.  
(先生、こちらはアンディー・リチャードさんです。アンディーさん、こちらが西村です。)
- Welcome to Kanagawa Elementary School. It's very nice to meet you.  
(神奈川小学校へようこそ。どうぞよろしくお願いします。)
- Is this your first trip to Kanagawa? (神奈川に来るのは初めてですか。)
- I'll show you around Kanagawa someday soon. (近いうちに、神奈川をご案内します。)

### 席をはずすときや別れるとき用いる表現

- Excuse me, I'll be back soon. (ちょっと失礼します。すぐに戻ります。)
- I'm afraid I must go now. (すみませんが、もう行かなければなりません。)
- I have an appointment with my friend at 6 o'clock. (6時に友人と会う約束があります。)
- Do you come to school by train? (学校まで電車で来ているのですか。)
- See you next Monday. (来週月曜日にお会いしましょう。)
- I look forward to seeing you next week. (来週お会いするのを楽しみにしています。)

### 本書を活用した英語活動上の留意点を伝えるときに用いる表現

- We want to have the students listen to the same words and expressions repeatedly through various activities.  
(私たちは、様々な活動をとおして、子どもたちに同じ単語や表現を繰り返し聞かせたいのです。)
- Please don't force the students to try to answer in English.  
(子どもたちに無理に英語で答えさせようとししないでください。)

- The students can answer your questions in Japanese.  
(子どもたちがあなたの質問に日本語で答えても構いません。)
- The students can answer your questions by gestures.  
(子どもたちがあなたの質問にジェスチャーで答えても構いません。)
- Even if the students can't answer your question in correct English, that's OK.  
(子どもたちがあなたの質問に正しい英語で答えることができなくても構いません。)
- Please repeat the correct English and have them listen to it again.  
(正しい英語を繰り返してもう一度子どもたちに聞かせてください。)

授業の打ち合わせや意見交換をするときに用いる表現

- This is our textbook. (私たちはこの本を使って英語活動の授業を行います。)
- Please follow this lesson plan. (この指導案に従って行ってください。)
- Please follow this script. (このスクリプトに従って行ってください。)
- Please use the expressions in this script. (このスクリプトにある表現を使ってください。)
- This is the lesson plan for next time. (これが次回の指導案です。)
- What do you think of this idea? (このアイデアについてどう思いますか。)
- It's a good idea. (それは良いアイデアです。)
- I think so. I think so, too. I don't think so.  
(そう思います。)(私もそう思います。)(私はそう思いません。)
- Yes, that's right. No, that's not true.  
(はい、そのとおりですね。)(いいえ、それは違います。)
- That's a very interesting idea, but I have a question about the content.  
(それはとてもおもしろいアイデアですが、その内容について質問があります。)
- That's exactly what I was trying to tell you. (それはまさに私が言おうとしていたことです。)
- The students seem to feel that the activity is too easy.  
(子どもたちはその活動を簡単すぎると思っているみたいです。)
- That's not the way I see it. (私はそのようには思いません。)
- The students are not so interested in an activity like this.  
(子どもたちはこのような活動にはそれほど興味をもっていません。)

- I'm sorry, but I have no idea about that. (すみませんが、そのことについてはわかりません。)
- First, we play "Simon says." (まず、「サイモンセズ」をします。)
- Next, you will give instructions to the students in English.  
(次に、あなたは子どもたちに英語で指示を出します。)
- Andy, will you give us some examples using these words and phrases?  
(アンディーさん、これらの単語や句を使った例文をいくつか教えてくださいませんか。)
- Any questions so far? Do you have any suggestions on this teaching plan?  
(これまでのところで質問はありますか。この指導案について何か提案することはありますか。)
- Do you know any games or songs related to this lesson?  
(このレッスンに関係するゲームや歌を何か知っていますか。)
- Please don't forget to smile and gesture. (笑顔とジェスチャーを忘れないでくださいね。)

#### 英語について質問するとき用いる表現

- How do I pronounce this word? (この単語をどのように発音すればよいのが教えてください。)
- Where should the accent be on this word? (この単語のアクセントはどこですか。)
- Will you make a sentence using these words and phrases?  
(これらの単語やフレーズを使って文を作ってくださいか。)
- Can you write this word for me? (この単語を書いてくれますか。)
- Can you draw a picture of this word on this paper?  
(この単語の絵をこの紙に描いてくれますか。)
- What does this word mean? (この単語はどのような意味ですか。)
- How do you use this word? Is it a noun or a verb?  
(この単語はどのように使うのですか。それは名詞ですか、それとも動詞ですか。)
- I don't know what this sentence means. (この文の意味がわかりません。)
- Can I say, "You can see many animals on the board."  
(“You can see many animals on the board.”は通じますか。)

#### ティーム・ティーチングの授業中にALTに指示するとき用いる表現

- Andy, will you play Kenta's role? (アンディーさん、健太さんの役をしてくれますか。)

- Andy, please say it again. This time, louder, please.  
(アンディーさん、それをもう一度言ってください。今度は大きな声でお願いします。)
- Will you draw a picture of a lion on the board? (黒板にライオンの絵を描いてくれますか。)
- Please make a gesture for “ elephant. ”(「ゾウ」のジェスチャーをしてください。)
- Please pass out these worksheets. (これらのワークシートを配ってください。)
- Will you instruct this group? (このグループを指導してくれますか。)
- Will you show the students the card again?  
(もう一度子どもたちにカードを見せてくれますか。)
- Please have the students repeat after you, Andy.  
(アンディーさん、あなたのあとについて子どもたちに繰り返させてください。)
- Do you know anything about American football?  
(アメリカンフットボールについて何か知っていますか。)
- Can you give the students information about Christmas?  
(クリスマスについて子どもたちに何か教えてあげてくれますか。)





## 付録 C D の内容

9 ~ 10 ページ 「日常的に使える英語表現の例」の音声

12 ページ 「ALT との打合せで使用する英語表現の例」の音声

活動集

14 ~ 73 ページ

各活動(本書)の「取りあげる英単語」、「取りあげる英語表現」及び、「担任(ALT)の動き」に記された英語表現の音声

各活動の音声については、「通し番号」「活動名」「取りあげる英単語」「取りあげる英語表現」「担任(ALT)の動き」の流れで収録されています。

例えば、本書 30 ページの「いったい、これは何だろう? 象だ!」であれば、

「5」「いったい、これは何だろう? 象だ!」「取りあげる英単語 <生き物> 「elephant, monkey, tail, ear」→「取りあげる英語表現 What's this? Is this an elephant?」「担任(ALT)の動き【1】Now, we'll play a game. What's this? An apple? Yes? No? ----- 【2】What's this? Is this a monkey? No. ----- 【3】----- 【4】----- 【5】-----」

といったように収録されています。ただし、【1】、【2】、【3】、【4】、【5】の各番号については、音声として収録していません。

また、活動内容によっては、「活動の参考資料」のページに掲載した英単語や英語表現についても、その音声を収録してあります。

### 資料編

75 ~ 78 ページ 先生が授業で使用する英語表現の音声

81 ~ 85 ページ ALT とのコミュニケーションを図る際に役立つ英語表現の音声

~ 先生方へ ~

CD を聞くときは、単語の「アクセント(強勢)」や、英語表現の「リズム」、「イントネーション(抑揚)」について気をつけながら、聞くようにするとよいでしょう。

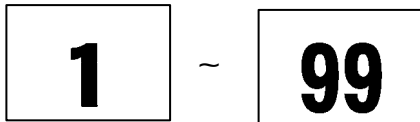
各活動で用いる絵カードやワークシートなど

絵カードやワークシートなどの 名称	該当する活動 数字は活動の通し番号
数字カード 1～99	1 歌ってみよう Seven Steps! 2 たして 10 になる数は? the Count to Ten Game
生き物カード	3 何匹いたかな? 5 いったいこれは何だろう? 象だ! 7 いなくなった動物は? 8 どんな動物がいるかな? 13 描いた絵見せて! どんな動物になった?
「何匹いたかな?」用カード 生き物以外のものを加えたカ ード	3 何匹いたかな?
果物・野菜カード	4 レモンはいくつ?
「いったい、何だろう? 象だ!」 用パワーポイント・スライド	5 いったい、これは何だろう? 象だ!
手影絵のやり方	6 手影絵で遊ぼう!
いろいろな動物がいるワークシ ートの例	8 どんな動物がいるかな?
8つの形の色カード	10 星形のカードは何色? 赤色のカードはど んな形? 12 いろいろな形で絵を描いてみよう!
虹のぬりえワークシート	11 虹(にじ)ってどんな色かな?
地図記号カード	14 地図記号カードで遊ぼう!
万年カレンダー	15 生まれた日は何曜日だった?

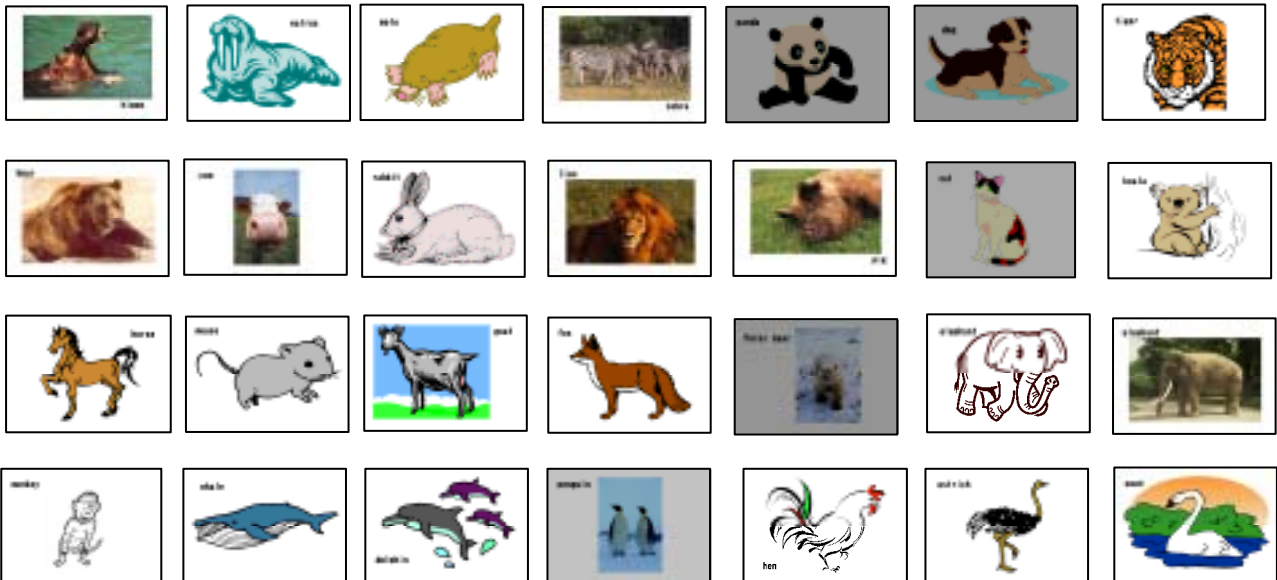
(縮小版を 88～92 ページに掲載 「万年カレンダー」を除く)

縮小版

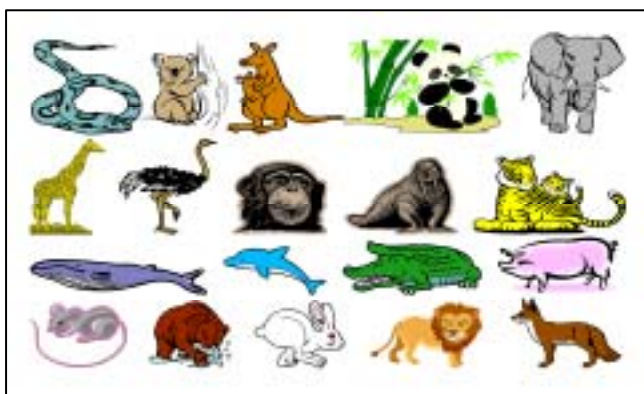
数字カード 1 ~ 99



生き物カード



いろいろな生き物いるカード

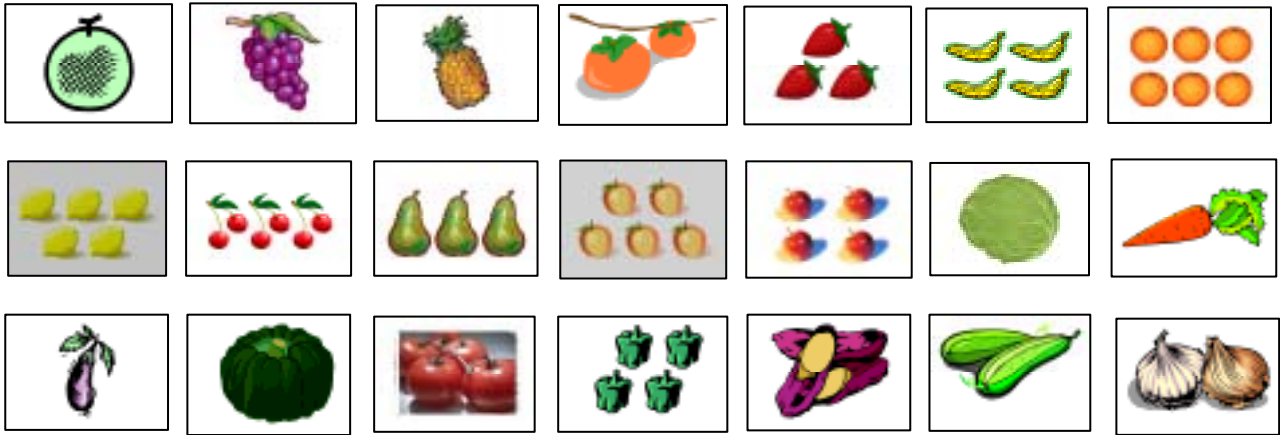


「何匹いたかな？」用カード

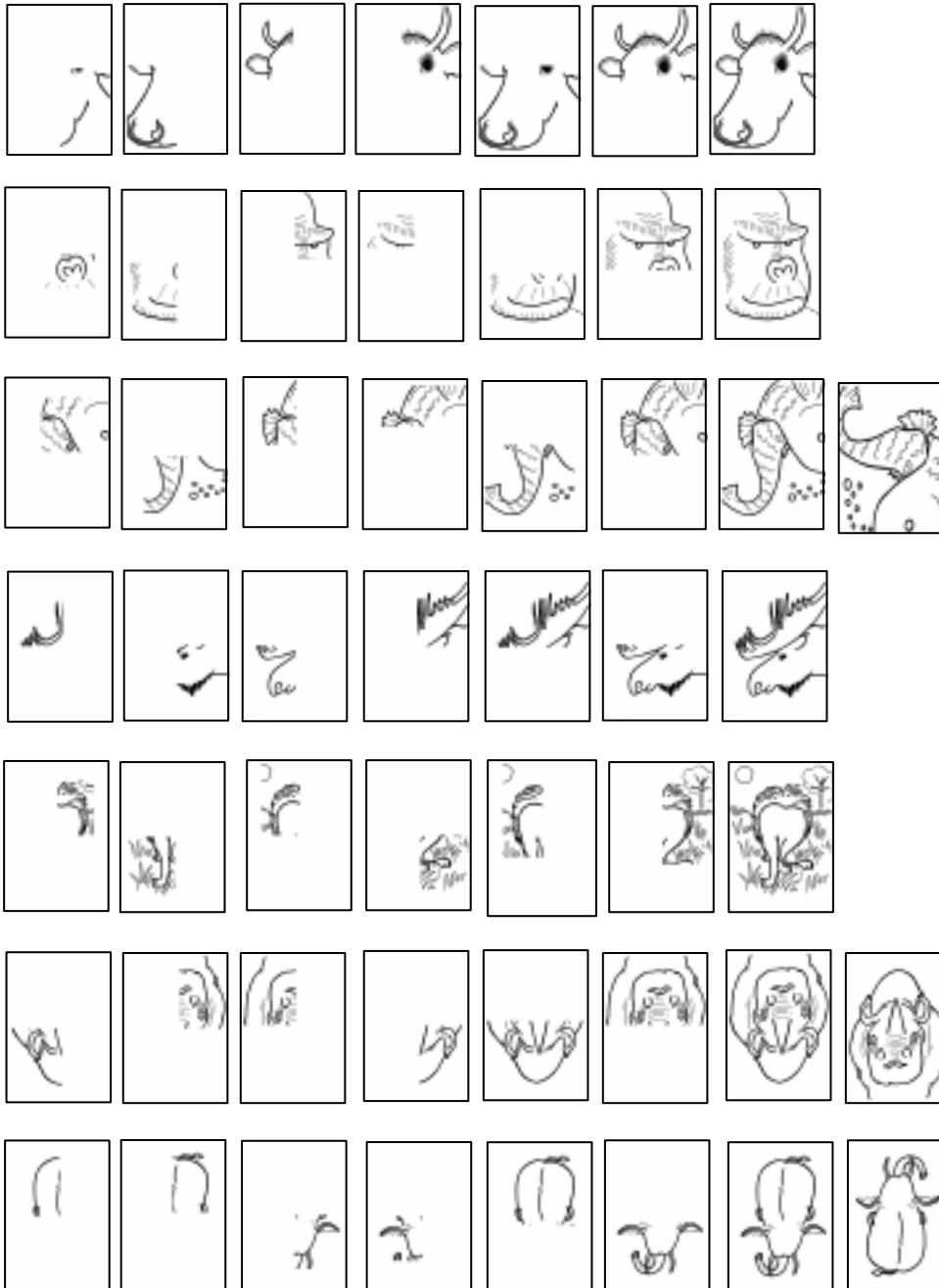
生き物以外のものを加えたカード

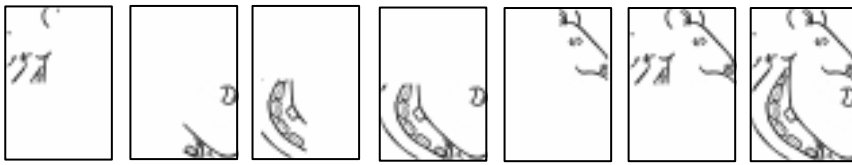


果物・野菜カード



「いったい、これは何だろう？ 象だ！」用パワーポイント・スライド





手影絵のやり方



いろいろな動物がいるワークシートの例



8つの形の色カード





魚類カード



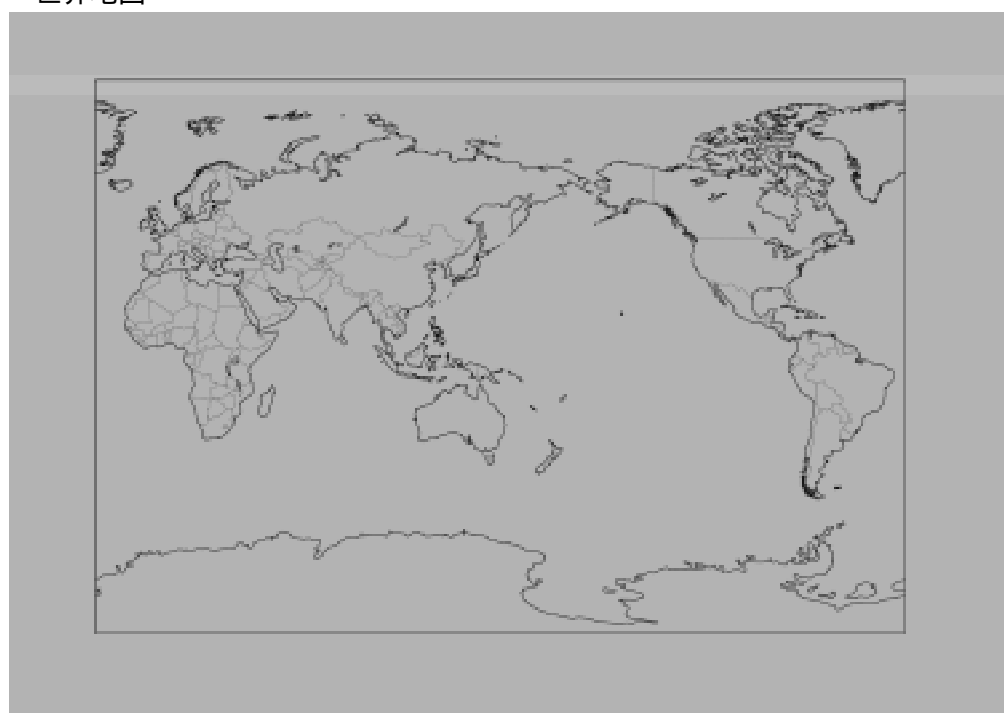
乗物カード



神奈川県地図



世界地図





『小学校英語活動 15 子どもたちの積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために』の作成関係者

< 助言者 >

所 属	職 名	氏 名	備 考
昭和女子大学附属昭和小学校	教 頭	小泉 清裕	平成 18、19 年度

< 調査研究協力員 >

所 属	職 名	氏 名	備 考
海老名市立社家小学校	総括教諭	山形 昭彦	平成 18、19 年度
小田原市立足柄小学校	総括教諭	古屋 守	平成 18、19 年度
二宮町立一色小学校	教諭	古正 栄司	平成 18、19 年度
南足柄市立福沢小学校	総括教諭	中村 有佐	平成 18、19 年度
茅ヶ崎市立緑が浜小学校	総括教諭	鳶崎 賢次	平成 19 年度

< 神奈川県立総合教育センター >

所 属	職 名	氏 名	備 考
カリキュラム支援課	研修指導主事	竹久保 明弘	平成 18、19 年度
カリキュラム支援課	研修指導主事	荒川 憲行	平成 19 年度
カリキュラム支援課	研修指導主事	阿部 一也	平成 18 年度
カリキュラム支援課	外国語専門員	Andy Hayes	平成 18、19 年度

## 小学校英語活動 15

子どもたちの積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために

発 行 平成 20 年 3 月  
発行者 田邊 克彦  
発行所 神奈川県立総合教育センター  
〒252-0871 藤沢市善行 7 - 1 - 1  
電話 (0466)81-1659 (カリキュラム支援課 直通)  
ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>



再生紙を使用しています

県章 神奈川県



**神奈川県立総合教育センター**

カリキュラムセンター（善行庁舎）  
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1  
TEL (0466)81-0188  
FAX (0466)84-2040

教育相談センター（亀井野庁舎）  
〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4  
TEL (0466)81-8521  
FAX (0466)83-4500

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>